

リアホナ



現代にシオンを築く、
4, 20ページ

レンランド長老を紹介します、
14ページ

青少年と子供を教えるための8つの鍵、
28, 30ページ

聖約と、神殿における礼拝——
神との関係を深める、32, 36ページ



「万物は
神がましますことを
示している。
まことに、大地も、
大地の面にある万物も、
大地の運動も、
また各々整然と
運行している
すべての惑星も、
それらのすべてが
至高全権の創造主が
ましますことを
証^ししている。」

アルマ 30 : 44

4



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
先祖の信仰に忠実に
トーマス・S・モンソン大管長
- 7 家庭訪問メッセージ——
親の可能性



表紙
表紙——「独りではない」ミネルバ・タイカート画
表紙裏——写真／ロイス・ペアー
裏表紙——写真／ガイ・コーエン

特集

- 12 教師評議会の効果
サンドラ・キャッテル
教師評議会集会でのある一言が、彼女の教え方を変えました。
- 14 デール・G・レンランド長老——
従順な僕
クエンティン・L・クック長老
奉仕の生涯を通し、レンランド長老は新しい使徒として、主が召される者をふさわしくしてくださいと知っています。
- 20 インド出身の開拓者としてのわたしの旅路
マンガル・ダン・ディプティ
(聞き手：ジョン・サントッシュ・ムラ)
主が織りなしてくださる人生は、わたしの想像を超えるすばらしいものです。——インドの片田舎の「ジャングル少年」だったわたしがバプテスマを受け、使徒と親しくなったのです。

24 夫に先立たれたザレパテの女性のように——
断食献金の奇跡
ジョウバイケン ジョウケンメイフ
周伯彦と周洗美華

わたしたちは貧しい人や助けを必要としている人を助けたいと思いました。自分の家族が利己的な傾向を克服できるようにと望んでいました。それをかなえる方法は断食献金にありました。

36 聖約を守るにより神を尊ぶ
ジョセフ・W・シターティ長老

全ての救いの聖約と儀式を交わり、守るにより天の御父との関係を深めるときに、わたしたちは天の御父を尊びます。

シリーズ

- 8 現代の預言者と使徒の言葉——
宗教の自由を守る
- 10 キリストについて語る——
価値観の異なる人々を愛する
匿名
- 28 救い主の方法で教える——
あなたが教える青少年を理解する
- 30 救い主の方法で教える——
「あなたがたの幼い子供たちを見なさい」——
子供の教え方を学ぶ
- 32 福音クラシック——
神殿における礼拝——
神を知るための鍵
マリオン・D・ハンクス長老
- 40 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで——
霊のワニ
ボイド・K・パッカー会長



48

44 早期の帰還に向き合う

ジェニー・ロリンズ

伝道から予定より早く帰還することは、非常につらい経験でした。家族や友人やわたしが知っていればよかったと思ったことについて紹介します。

48 ヤングアダルトのプロフィール——フランスで強さを保つ

ミンディー・アン・セル

フランス軍に所属するピエールは、自らの信仰の模範となるために、祈りと聖文研究に頼っています。

50 教会指導者からの答え——
神殿の祝福を求めるには
ロナルド・A・ラズバンド長老

51 そこが知りたい

恋愛感情？ 現代の奇跡？

52 友達からの圧力とピスト
キアラ・ブランコ

友達と一緒にパーティーに行かせてほしいと両親に頼み続けました。やっ
と行くのを許してもらえましたが、わたしはパーティーで、両親が早く迎え
に来てくれるよう祈りました。

54 科学と真理の探究

アリシア・K・スタントン

科学の授業で学んだことがどのよう
に福音に合致するのだろうかと心配し
ていますか？

58 備えて——行く

ヒューゴ・E・マルチネス長老

主は、家族歴史活動、神殿活動、伝道
活動をあなたの手で行うよう計画さ
れています。

60 救い主を覚える

エリック・B・マードック

イエス・キリストをいつも覚えるという
約束を守ることでもたらされる5つの
祝福

64 ポスター——半分うわの空？

65 わたしはこのようにして知りました
——世の光となることを学ぶ

ビクトル・デ・ヘスス・クルス・バルガス



こんにちは!
わたしは
イバナです。

70

66 だれであっても

リンダ・デイブス

「こまったわ」とアンディは思いました。
「わたしは家族と結び固められて
いないけれど、どうなってしまうの
かしら。」

68 クラレンス対チャンピオン

ローリー・フラワ

みんなは、本当に知恵の言葉が真実
かどうかをたしかめに、クラレンスの
競技を見に来ました。

70 しっかりと立つ子供たち——

友達としんこう

メリッサ・ハート

72 使徒からの答え——

宣教師はどのようにして
召されますか

M・ラッセル・バラード長老

73 質問コーナー

お母さんとお父さんが口げんかをす
るとき、とても不安で悲しくなりま
す。わたしに何ができるでしょうか。

74 モルモン書のヒーロー——

勇敢な司令官モロナイ

75 わたしは モルモン書を
読むことが できます

76 モルモン書ものがたり——

しれいちょうかん
モロナイの はた

79 音楽——開拓者のように

ジャンス・カップ・ペリー

こんげつごう なか
今月号の中に
かく
隠れている
リアホナを
さが
搜しましょう。
ヒント——
カトリック・モルモン
とは何でしょうか。



54

家庭の夕べのためのアイデア

この機関誌には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に二つの例を挙げます。



「夫に先立たれたザレパテの女性のように——断食献金の奇跡」24 ページ

家族と一緒にこの記事を読み、列王記上第17章に記されている、夫に先立たれたザレパテの女性の話を研究するとよいでしょう。それから、次の質問をするとよいでしょう。断食献金は、自分や家族にどのような祝福をもたらしてきたでしょうか。わたしたちの断食献金で誰が祝福を受けられるでしょうか。さらに惜しみなく断食献金を納めることにより、我が家にどのような祝福がもたらされるでしょうか。さらに惜しみなく断食献金を納めることができるか、あるいはほかにどのような方法で貧しい人

や助けを必要としている人を家族で助けることができるか話し合うとよいでしょう。

「美しいちょうかん モロナイの はた」76 ページ

——家族と一緒に司令長官モロナイに関するこの記事を読むとよいでしょう。それから、アルマ46:11-14を読み、司令長官モロナイが民を守る動機となったもの、「我々の神と宗教、自由、平和、妻子」について話し合みましょう。今日でも、これらのものは大切であり、攻撃にさらされています。家族の「自由の旗」を作り、自分にとって最も大切なものを守る方法について話し合うとよいでしょう。

インターネットで得られる追加情報

languages.lds.org で、「リアホナ」や教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。靈感あふれるメッセージや家庭の夕べのアイデア、日曜日のレッスンのためのヒントや、友達、家族と分かち合える内容を見つけるために、[Facebook.com/iahona.magazine](https://www.facebook.com/iahona.magazine) (現在は英語・スペイン語・ポルトガル語のみ) をご覧ください。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- | | | |
|-----------------------|------------------------------|------------------------------|
| 愛, 10, 44 | 奇跡, 51 | 聖文研究, 44, 48, 75 |
| イエス・キリスト, 4, 32, 60 | 個人の価値, 42 | 聖約, 32, 36 |
| 祈り, 24, 48, 68 | 子供, 7, 30 | 聖霊, 41 |
| 教える, 12, 28, 30 | 従順, 80 | セミナー, 58 |
| 親の務め, 7, 28, 30 | 純潔, 51 | 断食, 24 |
| 改心, 20 | 純潔の律法, 51 | 断食献金, 24 |
| 開拓者, 4, 20, 79 | 贖罪, 10 | 知恵の言葉, 52, 68 |
| 科学, 54 | 信仰, 4, 44 | 伝道活動, 40, 44, 58, 65, 70, 72 |
| 家族, 7, 10, 66, 73, 76 | 神殿の業, 32, 43, 50, 58, 66, 70 | 天の御父, 36 |
| 家族歴史, 42, 43, 58 | 救いの計画, 66 | 友達からの圧力, 52 |
| 神の特質, 7 | 聖餐, 36, 60, 64 | 召し, 41 |
| 儀式, 32, 36, 43 | 犠牲, 4 | 青年, 28 |
| 勇気, 4 | | |



トーマス・S・
モンソン大管長

先祖の 信仰に忠実に

ジョン・リンフォードが、妻マリアと3人の息子と一緒にイギリス、グレーブリーの家を離れ、グレートソルトレークの盆地にいる聖徒たちに加わるために数千キロの旅をしようと決意したのは43歳のときでした。彼らは伝道中の4番目の息子を残し、家財を売り払い、リバプールから「ソーントン号」という船に乗り込みました。

海を渡ってニューヨーク市に到着し、そこから陸路でアイオワまで移動する旅は順調でした。しかし問題が起き始めたのは、ソーントン号に乗って航海してきたリンフォード家族と他の末日聖徒が、1856年7月15日に不運なジェームズ・G・ウィリー手車隊の一員として、アイオワシティーを出発して間もなくのことでした。

過酷な天候と困難な旅のために、手車隊の多くの人が犠牲となりました。ジョンもその一人でした。ジョンは病気になって体が弱り、手車に乗せられて行くことになってしまったのです。一行がワイオミングに着く頃には、ジョンの病状はひどく悪化していました。ソルトレーク・シティーからの救援隊は10月21日に到着しましたが、それはジョンがこの世の旅路を終えたほんの数時間後のことでした。ジョンはその日の朝早く、スイートウォーター川の岸辺で亡くなったのです。

家族をシオンに連れて行くために、快適で心地よい生活と引き換えに苦闘と窮乏と困難とを選んだジョンは、そのこと

を悔やんでいたでしょうか。

「マリア、そうじゃないよ」とジョンが妻に言ったのは、亡くなる少し前のことでした。「一緒に来られたことをうれしく思うよ。ほくが生きてソルトレークに着くことはないけれど、君と子供たちは無事に到着するだろう。子供たちがシオンで成長して家族をもうけることができるのなら、これまで一緒に経験してきたことに少しの後悔もないよ。」¹

マリアと息子たちは最後まで旅を続けました。それから30年近くたってマリアがこの世を去ったとき、マリアとジョンは、信仰、奉仕、献身、犠牲という受け継ぎを残したのです。

末日聖徒であるということは開拓者であるということです。なぜなら開拓者とは「後に続く人々のために先立って、道を備えたり切り開いたりする人」とであると定義されているからです。² 開拓者であるということは、犠牲をいとわないということです。教会員はもう故郷を離れてシオンに旅するように求められてはいませんが、古い習慣や昔からの慣習、あるいは慣れ親しんだ友達に別れを告げなければならないことがよくあります。教会の会員であることに反対する家族とつながりを絶つという苦渋の決断をする人もいます。それでも末日聖徒は前進し、大切な人たちもいつかは理解し受け入れてくれるようにと祈ります。

開拓者の道は容易ではありませんが、わたしたちは究極



の開拓者であられる救い主の足跡に倣って進みます。救い主はわたしたちの前を歩き、従うべき道を示してくださいました。

「わたしに従ってきなさい」³と主は招いておられます。

「わたしは道であり、真理であり、命である」⁴と宣言されました。

「わたしのところに〔来なさい〕」⁵と呼んでおられます。

その道は試練の多い道かもしれませんが。純潔や正直、神の戒めに従順であることをあざ笑^{あざげ}う愚かな人の嘲りや不快な言葉に耐えるのは、簡単なことではないと思う人もいるでしょう。世の人々はこれまでも原則に忠実な人々を軽んじてきました。ノアが箱舟を造るように命じられたとき、愚かな民衆は晴れわたった空を見て、あざ笑い、からかいました。しかしそれも雨が降るまでのことでした。

何世紀も前のアメリカ大陸でも、ゼラ

ヘムラの町が火で焼き尽くされ、地がモロナイハの町を覆い、海の水がモロナイの町を飲み込むまで、人々は疑いの心を持ち、言い争い、不従順であり続けました。やがて、からかい、嘲り、下品な言葉、そして罪は地上から消えました。重苦しい静けさと深い暗闇が取って代わったのです。神の忍耐の時は過ぎ去り、神の時刻表どおりに事は

行われたのです。

マリア・リンフォードは、イギリスで迫害を受け、「見いだせ神の国を」⁶と歌われた場所に向かう旅で苦難を味わい、その後も、家族や教会のために試練に耐えなければならなかったにもかかわらず、信仰を失うことは決してありませんでした。

1937年にマリアの墓前で行われた追悼式典で、ジョージ・アルバート・スミス長老（1870 - 1951年）は彼女の子孫にこう語り掛けました。「あなたがたの先祖の信仰に忠実に生活してください。……皆さんのためにこれまで〔先祖が〕ささげてきたあらゆる犠牲にふさわしい者となれるよう、ぜひ努力してください。」⁷

わたしたちがそれぞれの心の中に、家庭に、地域社会に、そして国にシオンを築こうと努力するとき、イエス・キリストの贖罪を通して与えられる希望と約束とともに、回復された福音の祝福を享受するために全てをささげた人たちの確固たる勇気と変わらぬ信仰を忘れずにいることができますように。■

注

1. アンドリュウ・D・オルセン, The Price We Paid (2006年), 45 - 46, 136 - 137 参照
2. The Compact Edition of the Oxford English Dictionary (1971年) "pioneer" の項
3. ルカ 18:22
4. ヨハネ 14:6
5. ヨハネ 7:37。3ニーファイ 9:22 も参照
6. 「恐れず来たれ、聖徒」『賛美歌』17番参照
7. アンドリュウ・D・オルセン, The Price We Paid, 203 - 204 参照

このメッセージから教える

ああなたが教える人たちに、彼らの先を行ったり開拓者となったりした人について考えるように尋ねてもよいでしょう。それから、どんなときに自分が開拓者になって他の人のために道を備えなければならなかったか、尋ねてください。これまで犠牲を払わなければならなかったことや、なぜ犠牲を払う価値があったのかを少しの時間深く考えるように勧めてください。「究極の開拓者」である救い主に関する証を記録するように促してもよいでしょう。

先祖の信仰に忠実に

モンソン大管長はある開拓者の家族について話し、その後ジョージ・アルバート・スミス大管長の次の言葉を引用しています。「あなたがたの先祖の信仰に忠実に生活してください。……皆さんのためにこれまで〔先祖が〕ささげてきたあらゆる犠牲にふさわしい者となれるよう、ぜひ努力してください。」開拓者の先祖がいたり、あるいは教会における第一世代の会員であったりするかどうかにかかわらず、あなたは導きや強さを求めて信仰の模範に心を向けていますか。次のようにして始めてみましょう。

1. あなたがすばらしいと思う人のリストを作ってください。(過去か現在の)自分の家族の一員であっても、友達であっても、教会の指導者であっても、また聖典の登場人物であってもかまいません。

2. その人たちが持つあなたの好きな特質を書いてください。お母さんには本当に忍耐強いところがありませんか。もしかしたら友達には優しいかもしれません。勇気ある司令官モロナイがたぶん大好きでしょう。

3. リストから特質を一つ選んで、次のように自問してください。「この特質を身につけるにはどうしたらよいだろうか。人生でこの特質を伸ばすには、何をする必要がありますだろうか。」

4. この特質を伸ばすための計画を書き出し、いつも見える所に



貼って、目標を忘れないようにしましょう。天の御父の助けを求めて祈り、どれほど達成できたかを定期的にチェックしてください。この特質を十分に伸ばしたと感じたら、新しい特質を選んで取り組んでください。

自分の中に偉大な特質を育てていくとき、わたしたちは先祖が示した信仰や彼らの払った犠牲を誇りに思うだけではなく、周りの人に良い影響を及ぼすこともできることを忘れないでください。

こども

あなたも開拓者です!

開拓者は、後に続く人々のために道をそなえる人です。あなたの先祖の絵をかいたり、写真を見ついたりしてください。先祖は、あなたが後に続けるように、どのように道をそなえてくれたでしょうか。それが分かる物語をさがせますか。今日、あなたが開拓者になれる方法を二つ書きましょう。次の家庭の夕べで、そのアイデアを話してください。



よく祈りながらこの資料を学び、何を伝えるべきか分かるようお願いしてください。
「家族——世界への宣言」を理解することは、神を信じるあなたの信仰をどのように増し、
家庭訪問を通してあなたが見守っている姉妹をどのように祝福するでしょうか。
詳しくは www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn をご覧ください。

親の可能性

「神」の霊の子供たちにとって、この世に誕生して死すべき肉体を受け、永遠の命を目指して成長する機会を得るのは絶対に必要なことなのです」と、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は教えています。「偉大な幸福の計画の究極的な目的から考えると、地上と天における最終的な宝はわたしたちの子供と子孫であると、わたしは考えています。」¹

十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老は、次のように言っています。

「わたしたちは家族の大切さを信じています。そしてわたしたちは、子供の大切さを信じています。……

『神は……〔アダムとエバに〕言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ……。』〔創世1:28〕……

末日聖徒イエス・キリスト教会にあって、この戒めはこれまで忘れられたことも、なおざりにされたこともありません。」²

全ての人がこの世で親になるわけ



ではありませんが、わたしたちはあらゆる年代の子供を養うことができます。天の御父の家族の一員であることの祝福を味わい、地上の家族の一員であることの喜びとチャレンジを経験します。そして、多くの人にとって、親になる祝福は、この先の永遠の世において用意されているのです。

その他の聖句

詩篇 127:3; マタイ 18:3-5; 1 ニューファイ 7:1; モーセ 5:2-3

信仰・家族・扶助



現代の人々の経験から

「今日の世の中には、子供をもうけることの重要性を過小評価し、出産の時期を遅らせるよう、あるいは子供の数を制限するよう勧める声が数多く聞かれます」とアンダーセン長老は言います。「最近、(別の教会の)クリスチャンで5人の子供を持つ母親のブログを娘が紹介してくれました。このような書き込みがありました。『こんな文化で〔育つ〕と、聖書が教える母親の概念を理解するのがとても難しい。……優先順位では子供という存在は大学教育よりずっと下だし、世界旅行よりも確実に下だ。夜好きなときに外出できることやスポーツジムで体を鍛えることより低いし、現在の、あるいは将来のどんな仕事より低い。』そして、こう付け加えています。『母親であることは趣味ではない。召しである。子供という存在は、切手よりかわいいからといって収集するものではない。時間の都合がつけば子供を養うということでもない。神があなたに時間を下さっているのは子供を養うためなのだから。』」³

考えてみましょう

地上の家族は、天の家族とどんな点で似ているでしょうか。

注

1. ダリン・H・オークス「人に幸福を与える偉大な計画」『聖徒の道』1994年1月号, 81, 84 参照
2. ニール・L・アンダーセン「子供」『リアホナ』2011年11月号, 28
3. ニール・L・アンダーセン「子供」28 参照

宗教の自由を守る

全ての国の人々は協力して宗教の自由を推進しなければならないと、教会の指導者は繰り返し語ってきた。

2015年4月、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスにある南カリフォルニア大学で行われたジョン・A・ウィットワース記念宗教会議において、大管長会第二顧問のディーター・F・ウークトドルフ管長は、「教員は、あらゆる宗教、政治思想、人種に属する人々と友好的な関係を築くよう務めています」と述べた。

「これまで続けてきた不信感や心の狭さを捨て、真に新たな目で互いを見直すこと、つまり、互いを異国人や敵と

してではなく、旅の仲間、兄弟姉妹、神の子供として見ることは、最も難しい、しかし同時に、人類にとって最も価値のある気高い課題の一つです」とウークトドルフ管長は語る。最近幾度か、預言者と使徒たちは尊敬と理解を求める声明を出しているが、これもその一つである。

2015年10月、アメリカ合衆国カリフォルニア州サクラメントにあるCongregation Bnei Yisraelで開催された法曹・宗教者会議の場で、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、「宗教と政治の間に争いがあることはありません」と語り、続けてこう語った。「怒り、敵対、闘争といっ

た雰囲気が広がれば、わたしたち全員が敗者となります。」

また、「政府と法律は、信者と宗教組織、宗教活動に必要な保護を与えることができる」と述べると同時に、宗教の原則、教義、組織は、「一般法規や政府機関、そして市民が繁栄できる状況を作り出す力となり」、それによって、人も組織も全てが「幸福、協調、平和の下にともに暮らす」ことができると語った。

オークス長老は宗教の自由について、アルゼンチンで行われた集会でも講演を行った（『教会のニュース』『リアホナ』2016年1月号、16参照）。

2015年6月にはイギリスのロンドンで開かれた貴族院外交関連超党派議員団に対し、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老がスピーチを行い、こう語った。「宗教と宗教組織には、人の心の最も奥深い所にある価値観に訴えることによって、人を動機付けるという他にはない力があります。同時に、赦しと和解の気持ちを養い、個人と社会の理想のために努力したいという気持ちを高めます。」

また、2015年4月にブラジル、サンパウロにあるブラジルモスクで行われた異宗教会議では、十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老が次のように話をした。「多くの哲学が競い合う世界にあって、宗教の自由は平和の要です。」クリストファーソン長老がポルトガル語で講演したこの集会は、ブラジルが宗教の自由を強力に支援していることを記念するもの



イギリス、ロンドンで国会議員たちと面談したホランド長老は、宗教を信じている人には社会を動機付ける力があると語った。

アメリカ合衆国カリフォルニア州での宗教会議で、オークス長老は

↓ 宗教と政治が互いに尊重し合うよう呼びかけた。



ブラジルにおける宗教関係者の集まりで
クリストファーソン長老は、
「宗教の自由は平和の要です」と語った。



アメリカ合衆国カリフォルニア州で、
宗教指導者たちと談笑する
ウークトドルフ管長と妻のハリエット姉妹。



ラスバンド長老は
ブリガム・ヤング大学の学生に、
主が愛されたように愛しなさいという
キリストの教えに従うよう
勧告を与えた。 ↑

で、イスラム教徒、カトリック教徒、アドベンチスト派、ユダヤ教徒、福音派、末日聖徒、ネイティブスピリチュアリスト、特定の宗教を持たない人やその他の人々が出席した。「全ての人個人でも地域社会でも、自国でも外国でも、公私の別なく、また礼拝や宗教儀式、その実践や教えにおいて、自ら選んだ宗教または信条を持ち、それを表明する自由を保持し、守るためにとにも取り組み、平和を追求することができますように」とクリストファーソン長老は語った。

2015年5月、オーストラリアのシドニーにあるノートルダム・オーストラリア大学における宗教の自由に関する年次特別講義では、十二使徒定員会のクエンティン・L・クック長老がこう話している。「宗教者は、宗教の自由を守る最前線にいます。宗教の自由からその他多くの重要な自由

が生まれるのです。わたしたちは自らの宗教について公言できる力を守るだけでなく、それぞれの宗教独自の教義や律法を執行する権利も守らなければなりません。」

現在十二使徒定員会のロナルド・A・ラズバンド長老は、まだ七十人会長会の先任会長だった2015年9月、アメリカ合衆国ユタ州プロボのブリガム・ヤング大学で学生に向けたスピーチを行った。

ラズバンド長老は次のように語った。「皆さんと同世代の人の中には、そもそも宗教団体がなぜ政治に関わるのか、その理由をいぶかる人がいます。多くの場合、宗教の信者が政治に関わる動機に怪しいことがあるのではと疑うのです。」政治的な審議の場で宗教に役割を持たせるべきではないと考えるさまざまな団体の一致した声は、近年ますます大きくなり、「皆

さんやわたしのような宗教を信じている者が新たな犠牲者となる危険性」が高まっている。

ラズバンド長老は学生たちに、世界はこの問題に対応するために学生世代の人々の活発な働きかけを必要としていると述べた。「わたしたちは、皆さんの世代の人々が、思いやりや尊敬の念、公正さに対して抱いている自然な理解力を必要としています。これらの複雑な社会問題を解決するために、皆さんの楽観的な考え方や決意が必要です。」答えは、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」という救い主の戒めから始めることです、とラズバンド長老は語った（ヨハネ13:34）。■

教会のニュースや出来事についてもっとお知りになりたい方は lds.org/church/news?lang=jpn にアクセスしてください。

価値観の異なる人々を愛する

匿名

わたしは自分の子供たちが道徳的に高い価値観を持てるように努力してきました。ところが、彼らにとって身近な模範となるべき人の一人が誤った選択をしてしまい、わたしは今まで教えようとしてきたことが全て水の泡になるのではないかと心配しました。

義理の妹のジェイニー（仮名）は福音の中で育ち、とても熱心な教会員でした。幸せそうに見えた神殿結婚が破綻した後、周囲の人々がうわさ話をし、ジェイニーを裁くようになりました。彼女は多くの友人と距離を置くようになり、次第に教会からも離れてしまいました。

そして、アンディーという若い青年と交際を始め、その後間もなく同棲するようになったのです。わたしはそのことを自分の子供たちにどう伝えればよいか迷いました。3人の娘たちはジェイニーおばさんが大好きでした。家族として仲が良かっただけでなく、ジェイニーは娘たちのダンスの先生だったので、週に数回顔を合わせていました。

何か月もの間、娘たちはアンディーがジェイニーの家によく遊びに来ていたと思っていました。しかし、ついにジェイニーとアンディーが一緒に生活していることを打ち明けなければなりませんでした。ジェイニーたちの選択は重大な罪であるとわたしが説明すると、娘たちは理解したようでした。それから、わたしたちは福音の原則を守って生活することについてじっくり話しました。

そんなとき、思わぬ事態が発生しま

した。ジェイニーがうれしそうに、アンディーとの間に赤ちゃんができたと家族に報告したのです。わたしはこの報告が自分の子供たちにどんな影響を与えるだろうと再び心配になりました。このような方法で御自身の子供たちを地上に迎えることを天の御父が望んでおられないことを、子供たちは理解できるでしょうか。このようなことが周りで起きたら、子供たちはそれを、許容できる普通のことだと思うのでしょうか。

ジェイニーたちの新しい状況について子供たちに伝えたくないと思い、わ

たしは何週間もやきもきしました。1か月後、ジェイニーとアンディーは結婚を決めました。なぜ彼らは妊娠の知らせを、結婚後まで待てなかったのでしょうか。

わたしの心にふつつつと怒りが湧いてきました。どうすればジェイニーの行いではなく、彼女自身を愛せるでしょうか。おばが選択したことではなく、おば自身を愛し続けることを、どうやって子供たちに教えればよいでしょうか。

ある日姉が、彼女のワードで一人の若い女性が妊娠したときの話をして



真理に対する決意

「他の人々とその信条に、寛容と尊敬を示すからといって、わたしたちが理解している真理と交わした聖約に対する決意を放棄することにはなりません。……真理を擁護しなければなりません。その一方で、わたしたちとは異なる信条や考え、またそれらを保持する人々に寛容であり、敬意を示します。……」

同様に、わたしたちは子供たちや他の人々に教える義務を負っています。その人々にとって、真理に対するわたしたちの義務は最も重要です。もちろん、教える努力は人々の選択の自由を通して初めて実を結びます。ですから、常に愛と忍耐と説得によって行わなければなりません。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老
「真理と寛容のバランスを取る」
『リアホナ』2013年2月号、32、33



おばが選択したことではなく、おば自身を愛し続けることを、どうやって子供たちに教えればよいでしょうか。

くれました。この若い女性は教会に集い続け、間もなく自分の人生に訪れる大きな出来事を喜び勇んでいるように見えました。彼女自身が舞い上がっているように見えたため、他の若い女性たちは困惑しました。

しかし、わたしの姉は妊娠した若い女性の母親の訪問教師でしたので、その若い女性が自らを窮地に追い込んださまざまな選択を悔やみ、涙で枕をぬらした夜が何日もあったことを知りました。何週間も苦悩した末、その若い女性は自分の悪い行いを悲しみ続けるか、または前進して幸福になるかを選ぶことにしました。キリストの贖罪しよぐいの犠牲によって、彼女は自分の選択の結果を受け入れ、悔い改めを通して再び清くなることができるのです。

わたしはジェイニーも似たような経験をしたのかもしれないと思いました。彼女も、自分の選択を後悔した

ものの、その結果を変えることはできないので、受け入れて前に進むことにしたのでしょうか。

わたしは厳しい目でジェイニーを裁いていたこと、そしてイエス・キリストが望んでおられる方法で愛することができなかったことを恥ずかしく思いました。救い主の生涯について考えると、主がいつも罪人を探し出し、御自分の言葉と模範を通して教え、彼らを愛されたことを思い出しました。主のこの愛が人々の心を和らげ、彼らを変えたのです。

わたしは、周りの人が自分の期待に沿った行動をしているうちは彼らを愛するのに、彼らが間違いを犯したとたんに心の中で非難していることがしばしばあることに気づきました。何となく偽善でしょうか。わたしは悔い改める必要があることに気づきました。罪を許容することなく、罪人を愛する

ことを学ばなければならなかったのです。わたしはようやくジェイニーに対して抱いていた怒りを脇に置いて、彼女を心から愛することができるようになりました。

そして、もう一度子供たちとよく話し、結婚をしてから赤ちゃんを授かることの大切さを強調しました。わたしたちは新しい赤ちゃんが家族に加わることを楽しみに待ち望むことができ、皆でジェイニーを支え、彼女の人生のこの特別な時期と一緒に祝いたいと思えるようになりました。子供たちはジェイニーおばさんが間違ったことをしたことを理解していますが、それでもおばさんとアンディーおじさんを愛しています。そしていつか子供たちにとってすてきな家族である彼らが、両腕を広げて待ってられる救い主イエス・キリストのもとに戻る決意をするように願っているのです。■

教師評議会 の 効果

教師評議会集会で聞いたある一言によって変わったのは、わたしの教え方だけではありませんでした。



教師評議会集会は、サンドラ・キャッテル（中央）の教える力を伸ばすのに役立っています。

サンドラ・キャッテル

わ たしは年を取っているものですから、若い女性の教師に召されとき、「え！ どうしてわたしが……」と思いました。

若い女性の必要に合わせたレッスンをするために準備にかなりの労力をつぎ込みましたし、何を学んだのか、それをこの1週間でどう実践したのかを、若い女性に話してほしいと思っていました。しかし、わたしが質問しても、たいていは沈黙が返ってきました。

ワードで教師評議会が始まったばかりの頃、その集会の一つで、ある教師が自分もレッスン中に青少年に発言しても

らうことが難しいと感じていると言いました。すると、別の教師がこう言ったのです。「それなら、沈黙を許してあげたらどうでしょう。」人は質問されても、少し考えてからでないと答えられないことがあります。

教師評議会集会でこの言葉によって、わたしの教え方だけでなく、生徒も変わったのです。これについて、わたしはいろいろと考えました。次の若い女性のレッスンで、この1週間、どんな福音の原則を実践したかクラスの生徒たちに聞いてみました。いつものように沈黙が返ってきましたが、すぐに沈黙を破ろうとする代わりに、教師評議会集会で話し合ったことを思い出

なぜ教師評議会集会を開くのでしょうか

わたしたちは皆神の子供ですから、進んで福音を学び、福音に従って生活したいと望む人は天の御父に似た者になることができます。教師は、わたしたちが福音を学び、福音に従った生活をするうえで重要な役割を果たします。

教師を助けるために、大管長会と十二使徒定員会は、教会の全てのワードと支部で教師評議会集会を開くよう勧めています。この月例集会では、教師と指導者が一緒になって教え方のアイデアを出し合うことができます。

まだ始まったばかりですが、この集会の効果は既に教師にも指導者にも表れています。教師評議会集会の価値を認め、喜んで参加している会員の声をお聞きください。

- 「サポートシステムがあるのは心強いです。教師というのは孤独な務めだと感じる場合があります。でも、悩みや意見や感想を交換し、教師の召しを理解している人たちから意見や感想を言ってもらえる場があると、孤独ではなくなります。」
——プレストン・ストラトフォード
- 「教師評議会集会に出て、円滑に学べるようにする教師の側の努力が大切だということが分かりました。」——マーガレット・テュエラー



- 「教師は『レッスンを教える』のではなく『人を教える』ようになるべきだという考え方に合せて、良かったと思います。」
——リチャード・パティー
- 「質問の仕方や参加の促し方をどう改善したらいいか話し合ったことが、とても役に立ちました。また成功談や失敗談について話せるので、参考になります。」——ケン・ソネンバーグ
- 「この評議会は教授技術の改善に大変役立ち、わたしをもっと良い教師にしてくれます。教師の腕が上がると、クラス全員が恩恵を受けます。これは教師評議会なのですが、参加すると霊的にも成長すると思います。」——ブレント・ネルソン
- 「うれしいのは、教え方の改善方法をいろいろと考えられるようになったことです。」——カミール・フロング

教師評議会集会や「救い主の方法で教える」についてさらに詳しく知りたい方は、teaching.lds.org をご覧ください。

して、静かにこう言いました。「急いで答える必要はないのよ。」

そのとたんに、生徒は口を開き始めたのです。若い女性たちが意見を言い始め、素晴らしい経験を話してくれました。教師評議会集会で沈黙について簡単な意見を言ってくれた教師に、感謝を伝えたくてたまらなくなりました。一つの原則を実践しただけでこんなに大きな効果がすぐに表れたのは、驚きでした。

しかし、これだけでなく、自分が学んできた他の原則も有効だと分かったのは、もう少し後になってからでした。集会后、ある若い女性の母親が、彼女の娘がわたしのことを神か

ら召されていると言っていたと教えてくれたのです。

その言葉を聞いてどんなにうれしかったか、言葉にできません。わたしはこう考えていました。「自分がこの若い女性たちに教えるべきことは何だろうか。」しかし、わたしは彼女たちに大事なことを実際に教えているはずなのです。わたしは目的があって召されています。そして、教師評議会はその目的を達成できるよう助けてくれます。■

筆者はスコットランド在住です。

自分の教え方を変えることによって人々に生活を変えてもらうにはどうしたらよいか、さらに詳しく知りたい方は、teaching.lds.org をご覧ください。

デール・G・ レンランド長老

——従順な僕しもべ

十二使徒定員会
クエンティン・L・クック長老



次ページ——レンランド長老とそのきょうだい(アニタ、リンダ、ゲリー)はスウェーデン語を話しながらユタ州で成長した。彼らの両親、オーケとマリアナは1950年にスウェーデンからユタ州に移り住み、神殿で結び固めを受けた。当時、スカンジナビアやヨーロッパに神殿がなかったからである。

右——レンランド長老夫妻と娘のアシュリーは6年間アメリカ合衆国メリーランド州ボルチモアに住む。レンランド長老はジョンズ・ホプキンス病院で医療研修と循環器専門医研修を終え、レンランド姉妹はメリーランド大学法科大学院に通った。

デール・レンランドとルース夫人の生活はこれ以上ないほど多忙でした。20代後半、アメリカ合衆国メリーランド州ボルチモアに住んでいた頃のことです。デールはユタ大学の医学部を卒業し、ルースとともに国を横断してここに移り住みました。ジョンズ・ホプキンス大学医学部で厳しい一流の医療研修を受けるためです。彼らにはかわいい幼い娘、アシュリーがいました。彼の大切な妻ルースはがん治療を受けており、彼は従順に召しを受け入れてビショップとして奉仕していました。

デールはワードの会員を訪問する際に、アシュリーを連れて行くことがときどきありました。ある日、教会に集っていない会員を訪問しました。「わたしは、自分が連れてくるこの愛らしい小さな女の子を拒める人などいないことを知っていました」と、そのときのことを振り返ってレンランド長老は語ります。ある男性の家のドアをノックしました。

その人は、以前に腹を立てて、レンランドビショップの顧問を追い返していました。

ドアを開けたその男性は体が非常に大きく、そのためにドアの奥が見えないほどでした。彼は

レンランドビショップをにらみ付けました。そのとき、4歳のアシュリーが大きな声で言いました。「入ってもいいでしょ?」

驚いたことに、男性はこう言いました。「そうだね。入って。」

中に入って腰かけると、男性はレンランドビショップに、自分は教会が真実だとは信じないし、イエス・キリストも信じていないと言いました。そして怒りに任せて話し続けました。その間、アシュリーはおもちゃで遊んでいました。ついにアシュリーは椅子を降りると、手を丸くして父親の耳に当て、大きめの声でささやきました。「お父さん、真理について話してあげて。」

レンランドビショップはそうしました。その男性に自分の証を述べたのです。そのときのことをこう話しています。「男性の態度は和らぎ、御霊が彼の家を訪れました。」

現在、レンランド長老は十二使徒定員会の会員として、全世界に真理を告げる機会にあ

ずかっています(教義と聖約107:23参

照)。レンランド長老は

こう言っています。「あらゆる地の人々の生活にキリストの贖罪しよぐわいをもたらす助け

をするときに、

最大の喜び





束をした後、神殿以外では結婚しないと決意しました。当時ヨーロッパに神殿がなかったため（スイス・ベルン神殿の奉獻は1955年）、二人はソルトレーク神殿で結び固めを受けられるよう、ユタに来たのです。

レンランド長老の妹、7歳年下のリンダ・C・マウラー姉妹は次のように述べています。4人の子供たちは全員成長する過程で、「両親がどれほど卓越した、忠実な人であったか



があります。この召しは、全世界に対するキリストの証人として、より大きな規模で、より多くの場所においてそのような助けをする機会をわたしに与えてくれると思います。」

北欧での子供時代

デール・グンナー・レンランドは1952年11月3日にアメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーで生まれ、自分のきょうだいとはスウェーデン語を話しながら成長しました。母マリアナ・アンデションはスウェーデン出身で、父マッツ・オーケ・レンランドはフィンランド西部のスウェーデン語を話す町の出身でした。彼らは1950年にスウェーデンからユタ州に移住しました。

デールの両親はストックホルムの教会で出会い、結婚の約



を理解しています。両親が英語の会話力もなく他からの支援もほとんどない状態で移住したのは、福音と神殿の祝福を得るためでした。」

デールが11歳のとき、熟練した大工であり建築家であった父は、3年間スウェーデンで建築宣教師として奉仕するように召されました。家族はフィンランドのヘルシンキとスウェーデンのイエーテボリに住みました。教会の小さな支部に出席し、子供たちはスウェーデンの公立学校に通いました。デールの妹、1歳年下のアニタ・M・レンランド姉妹は、転居に伴う苦勞の一つを思い出してこう言っています。「これは最初、わたしたちにとってショックでした。家ではスウェーデン語を話していましたが、文法は知らず、字は書けなかったからです。」

デールは少年の頃、モルモン書を読んで証を強める経験をしました。スウェーデンの伝道部会長がモルモン書を読むようにアロン神権の若い男性たちに勧めたのです。デールの兄ゲーリーは当時12歳で、そのチャレンジを受け入れ、11歳のデールもそのチャレンジに応じました。デールは



レンランド長老は夫人と娘（上）とともに、ソルトレーク・シティーで行われたルーツテック家族歴史大会で話をした。
次ページ——1977年にソルトレーク神殿で結婚したレンランド長老夫妻は、いつでも、どこでも召された地で主に仕えてきた。



モルモン書を読んだ後で祈り、それが真実かどうか尋ねました。レンランド長老はそのときのことをこう言っています。「『わたしはそれが真実であることをずっと告げてきた』と心にはっきりと訴えるものがあるのを感じました。それは素晴らしい経験でした。」

デールとそのきょうだい——ゲーリー、アニタ、リンダ——は、合衆国に帰ってからでも会話と祈りはスウェーデン語でしていたそうです。また、聖文を知ることの大切さを両親が特に強調していたことも思い出し、こう言っています。「両親に言いたいことを伝える一番良い方法は、聖文を用いることでした。」アニタはこんな冗談を言います。「家族の中で生き残る手段は、聖文を知ることでした。選択の余地はありませんでした。」

驚くべきことに、ゲーリーとデールは同じ時期にスウェーデン伝道部で奉仕するように召されました。二人は一度も同僚になりませんでした。2年以上にわたって宣教師として主に仕えるために、スウェーデン語の会話力を活用することができました。レンランド長老は自分の伝道について、苦労は多かったが

素晴らしい経験だったと述べています。「献身的に働き、キリストの弟子となるために最善を尽くす覚悟を決めたことから、伝道によって人生が変わりました。」

最も素晴らしい祝福

デールは1974年に伝道から帰った後、ユタ大学で学びました。優秀な学生で、化学の学士号を取得しました。きょうだいや親しい友人は皆、彼が何をするにしても有能で集中力があり、勤勉で、献身的に努力していたと言っています。この特質は今も健在です。ゲーリーは声高に言います。「彼はわたしがこれまで出会った中で一番の働き者です。」

デールはワードでルースという名の若い女性に会いました。彼女はステーキ会長会の一員であるマーリン・R・リバート長老の娘でした。リバート長老は後に七十人定員会で奉仕しています。デールの記憶では、勇気を奮い起こしてルースにデートを申し込んだものの断られ、数か月後に再び申し込んで承諾を得たということです。ルースの話は少し違っています。彼が聖餐会^{せいさん}で伝道について話すのを聞いて感動したというのです。二人はだんだん親しくなり、彼女はデートを申し込まれました。胸が高鳴りましたが、あるパーティーを主催していたために断らなければなりません。そして再度申し込まれたときに、喜んで承諾したのです。

デールとルースは1977年にソルトレーク神殿で結婚しました。当時、デールはユタ大学の医学部に通っており、ルースはソルトレーク・シティーにあるサウス高等学校^{きょうべん}で教鞭を執っていました。レンランド長老は、「教会員として熱心に活動しようという決意は別として、ルースとの結婚はわたしの生涯で最も素晴らしいことでした」と言い切ります。レンランド長老が1980年に医学部を卒業してから1週間後に、娘のアシュリーが生まれました。

その後、喜ばしいことに、レンランド長老は

ジョンズ・ホプキンス病院に採用されました。医学の勉強を続けるのに一番良いと思っていた病院に就職できたのです。家族はメリーランド州ボルチモアに引っ越し、そこで彼は病院の医療スタッフの一員となりました。

試練による成長

1981年10月、レンランド姉妹は卵巣がんと診断されました。そして手術を2回受け、6か月間化学療法を受けました。レンランド長老はルースと娘の世話に奮闘したときのことをこう回想しています。「つらい経験でした。祈りが天に届いていないかのように思われました。」

デールがルースを病院から家に連れて帰ったとき、彼女は弱っていましたが、二人は一緒に祈りたいと思いました。デールは祈ってくれないかとレンランド姉妹に頼みました。「すると彼女はまずこう祈ったのです。『天のお父様、何が起ころうともわたしたちが永遠に一緒にいられるようにしてくれる神権の力があることを、あなた様に感謝申し上げます。』」

その瞬間、デールは妻と神を特別に身近に感じました。「それまで永遠の家族について頭で理解していたことを、心で理解したのです」と、レンランド長老は言います。「ルースの病気がわたしたち夫婦の人生の流れを変えました。」

病気から思いをそらすために、レンランド姉妹は法科大学院に通うことにしました。「『何か良いことに生かさないう限り、それは苦しい経験でしかなくなる』とただ思っただけです」と、レンランド姉妹は言います。「若いときにがんを患って子供が一人だけになってしまうことになろうとは、わたしたちは考えてもいませんでした。それに、自分が生き延びられるのかも分かりませんでした。それでも、法科大学院に通うのは正しいことだと感じたのです。」

彼女は病気の治療を受けながら学び続け、夫も研修を続けました。

ボルチモアの都市部のビショップ

レンランド長老が3年間の一般研修から循環器専門医研修に移った頃のことです。面接があり、ボルチモアワードのビショップになるようにと言われま



した。当時メリーランド州ボルチモアステークの第一顧問であったブレント・ペティーは、その面接のことをよく覚えています。彼とステーク会長のスティーブン・P・シップリーは二人とも、レンランド長老を面接していたときに「聖なる御霊の強い影響力」を感じました。

ペティー兄弟は、レンランド長老が仕事や家族について困難な状況にありながらも、「彼自身が卓越したビショップであることは明らかでした」と回想します。ペティー兄弟によると、昨年、レンランド長老が十二使徒定員会への召しを受けたとき、ボルチモアワードの会員はもちろんのこと、レンランド長老の医師仲間も、その医師たちのほとんどは末日聖徒ではありませんが、皆喜んだそうです。レンランド長老への愛と、その奉仕と並外れた人格に対する称賛の言葉を述べていました。

輝かしい経歴

1986年、レンランド姉妹がメリーランド大学法科大学院を卒業し、またレンランド長老も3年間の内科研修プログラムと3年間の循環器専門医研修を終えた後、彼らはユタに戻りました。レンランド姉妹はユタ州司法長官事務所法律家として働き始め、レンランド長老はユタ大学で内科学教授になりました。彼は18年間、ユタ州移植提携病院心臓移植プログラムの医長を務めました。



レンランド長老は中央幹部として奉仕する召しを受けると、心臓専門医として成功を収めていた医師の職を辞した。最初に受けた割り当ては、アフリカ南東地域会長会での奉仕である。

次ページ——レンランド長老は、モンソン大管長の執務室で見たハインリッヒ・ホフマンが描いた「救い主」の絵に感動し、その絵を自分の執務室にも飾ることにした。

また2000年には、ソルトレーク・シティーにあるインターマウンテン・ヘルスセンターで心不全予防・治療プログラムの責任者になりました。そのプログラムは、埋め込み型心臓ポンプと完全置換型人工心臓を取り入れていました。国際的に広く知られている心臓外科医である医学博士のドナルド・B・ドティ氏は、LDS ホスピタルでレンランド医師の同僚であり、友人でした。ドティ医師はこう言っています。「彼のすばらしい訓練、徹底した集中力、優れた管理能力、思いやりは並外れていました。」

長年レンランド医師の身近で一緒に働いた敬虔なカトリック教徒のA・G・クフォーリ医師は、レンランド医師は地区内の心臓移植を主導する医師であり、「その人柄、誠実さ、謙遜さ、思いやりの点で比類ない」人であったと述べています。またこうも言っています。「彼は人々の一番良いところを引き出していました。人目につかないところでそれを行いました。相手の話によく耳を傾け、気を配りました。そして、一緒に働く人々の成功

に深い関心を示しました。」レンランド医師は静かに模範によって指導し、同僚たちの家族をいつも気遣いました。

クフォーリ医師は特に、患者に対するレンランド医師の思いやりについて語っています。例えば、患者に交通手段がなければ、レンランド医師は非常に遠くに住んでいる患者の家まで車で行き、車に乗せて病院に連れて来るのです。これは普通にできることではないと、クフォーリ医師は言います。

七十人定員会での奉仕

レンランド長老は、ソルトレーク大学第一ステークで5年間ステーク会長を務めた後、2000年にユタ地域における地域七十人として奉仕するように召されました。その後2009年4月に、中央幹部七十人になるように召されました。最初の割り当てはアフリカ南東地域会長会での奉仕でした。その地域には25か国にわたって教会ユニットがあります。

レンランド姉妹はその召しに対する自分たち夫婦の対応についてこう述べています。

「もちろん、驚きました。人々から、『絶頂期に仕事を辞めるのですね』と言われました。おそらくそのとおりです。でも、絶頂期のわたしたちを主が必要とされ、わたしたちの奉仕できるのが今なのであれば、それこそ行くべきです。」

レンランド長老は夫人のことを自分のヒーローと呼び、「彼女の払った犠牲の方が大きいですよ」と言います。レンランド姉妹は夫と一緒に奉仕するために、法律事務所の所長を辞め、また幾つかの著名な会社の取締役の職を辞しました。「わたし





ら予期しない電話を受けました。そして、教会執務ビルで「トーマス・S・モンソン大管長と二人の顧問から温かく迎えられました。椅子に座ると、モンソン大管長はわたしを見てこう言いました。『レンランド兄弟、十二使徒定員会の会員として奉仕する召しを

たちはアフリカに派遣され、何が本当に大事なのかを聖徒たちから教えられました」と、レンランド長老は語ります。

ある日曜日にコンゴ中部で、彼は会員たちに、どのような悩みがあるか尋ねましたが、彼らには悩みが思い当たりませんでした。もう一度尋ねたところ、ようやく、部屋の後ろの方にいた一人の年配の紳士が立ち上がってこう言ったのです。「レンランド長老、悩みなどあり得るでしょうか。わたしたちにはイエス・キリストの福音があります。」そのときのことを考えながら、レンランド長老はこう説明します。「わたしはこのコンゴの聖徒たちのようでありたいと思います。彼らは毎日食物のために祈り、毎日食物のことで感謝し、家族のことを感謝しています。物は持っていませんが、彼らには全てがあります。」

レンランド長老は5年間地域会長会で奉仕し、広大なアフリカ南東地域を何千キロも旅して、会員と宣教師を訪問しました。その中にはフランス語が話されている国が何か国があったため、フランス語を学びました。

当時アフリカ南東地域会長会とともに働く割り当てを受けていた十二使徒定員会会員のジェフリー・R・ホランド長老は、レンランド長老について、「レンランド長老以上にその地域と地域の人々と彼らの必要に自分自身をささげた人はいません」と述べています。彼は人々を知り、彼らの文化を愛し、^{あがな}贖いの光のある場所に向かって聖徒たちが進めるよう、絶えず働きました。

特別な証人になる召し

2015年9月29日、レンランド長老は大管長会事務局か

あなたにお伝えします。』」

レンランド長老は当惑しましたが、へりくだってその召しを受け入れました。そのときのことをこう言っています。「モンソン大管長はわたしが腰を抜かさばかりに驚いているのを察知したのでしょうか。わたしを見て、『神があなたを召されたのです。主がそれをわたしに知らせてくださいました』と言いました。」

レンランド長老は自分の執務室に帰ると、ドアを閉じ、ひざまずいて祈りました。そして心を落ち着かせると、妻に電話しました。「妻は驚きましたが、主と主の教会とわたしに全てをささげると言ってくれました」と、彼は語ります。

娘のアシュリーはこう言っています。「父は天の祝福のおかげで卓越した人となり、奉仕の生涯を過ごすことによってこの召しに備えられてきました。父は心が広く、愛にあふれています。」

レンランド長老の兄ゲーリーも同じようにこう言っています。レンランド長老は「幾つもの問題を乗り越え、与えられた召しを果たすことにより、ずっと前から備えられてきたのです。これは既に定められている、より大きな計画の一部です。わたしにとって彼を支持することはたやすいことです。」

この召しの重さをしみじみと感じて、レンランド長老はこう語っています。「自分がふさわしいとは思いませんが、ただ、わたしは、イエス・キリストが世の救い主であられることを知っています。イエス・キリストが実際に生きておられると証できますし、イエス・キリストがわたしの救い主、皆さんの救い主であられることを証することができます。それが真実であることを、わたしは知っています。」■

インド出身の開拓者としての

わたしの旅路



かたいなか
インドの片田舎の
「ジャングル少年」だった
わたしが今日ここに
いられるようになるまでの
経緯を振り返ると、
わたしの人生と信仰は
奇跡だということが
分かります。



マンガル・ダン・ディプティー
(聞き手：ジョン・サントッシュ・ムララ)

わたしは、インドの東ガーツ山脈に囲まれたジャングルにある小さな村で生まれました。わたしが生後18か月のときに、家族はコラブ川の岸辺にあるダングラパリ村に引越しました。両親は歩いてそこまで行き、わたしは籠かごに入って運ばれました。その村には20世帯から25世帯くらいの家族がいて、小さな掘っ立て小屋に住んでおり、電気は通っていませんでした。学校も病院もバス乗り場也没有ありません。わたしたちは飲み水を求めて河原を掘りました。子供時代はジャングルや野原で遊び、竹馬で沼を歩いたり、川で泳いだりしました。

先祖はヒンズー教の寺院の祭司で、ジャダルプルのパスター地区のマハラジャ(王)の下で働いていました。しかし、政情不安のために危険を感じ、祖父は家族とともにコトパッドに逃れたのです。祖父の家族はルーテル教会の布教所にかくまわれ、祖父はヘルパーとして働き、アーユルベーダ(薬草による治療)に携わりました。祖父はこの教会で、キリスト教に改宗したのです。

祖父はその後伝道者となり、グル(教師)となって、ずっとキリスト教の信仰に従って生活しました。わたしは生まれると、マンガル・ダン・ディプティー(「善」「たまもの賜物」「光」という意味)と名付けられました。キリスト教系の名前です。

子供の頃は、ルーテル教会にいつも行っていました。わたしたち信者は、一緒に祈るために、よく山に登りました。ある日、雨が降っていて、祈りのグループが全員、びしょぬれになってしまったことがありました。ところが、説教者の一人が雨がやむようにと、熱烈な祈りを主にささげたところ、驚いたことに、雨がやんだのです。それ以来、わたしは神と祈りの力を信じるようになりました。

モルモンはクリスチャンか

中学2年が終わると、わたしは学校をやめてコトパッドにある3年制の神学校に通い、父と同じ伝道者への聖任を受けました。わたしはコトパッドとその周辺で数年間集會を

開いていましたが、その後北インドに引っ越して福音主義キリスト教徒文学協会の図書の販売を始めました。そんなときに、『モルモンはクリスチャンか』という本に出会ったのです。その本の何かに興味を引かれて、わたしは読むことにしました。

モルモンとその信条について批判的なことがたくさん書いてありました。それなのに、わたしはその本の多くの箇所に興味を持ったのです。特に神会の概念と礼拝のしかた、多妻結婚の歴史に興味を感じました。しかし、一番興味をそそられたのは、教会の名称に「イエス・キリスト」の名前が入っていることでした。もっと知りたいと思いました。

ある日祈っていると、モルモン教会のことを調べてみようという思いがひらめきました。ユタ州のソルトレーク・シティーが教会の本部だということが分かったので、わたしは「アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティー所在の末日聖徒イエス・キリスト教会の責任者様」宛てに手紙を書くことにしました。

使徒から学ぶ

1959年、その手紙の返信として、宣教師管理部のラマー・ウィリアムズ兄弟が『ジョセフ・スミスの証』という小冊子と信仰簡条、モルモン書を送ってくれました。わたしはそれを全部よく読んで、書かれていることは本当だと確信しました。しかし、教えてくれる宣教師も会員も、インドにはいませんでした。

すると1961年1月に、十二使徒定員会のスペンサー・W・キンボール長老(1895-1985年)がデリーを訪れたのです。3日間にわたって、わたしはキンボール長老に同行し、アーグラのタージマハールとダラムサラを案内しました。わたしはキンボール長老の教えてくれる福音を、スポンジが水を吸い取るように吸収しました。長老のインド訪問の最後の日、わたしには、バプテスマを受ける準備ができていました。1961年1月7日、わたしはヤムナー川でキンボール長老からバプテスマを受けました。興味深げに見物する人はたくさんいましたが、キンボール姉妹が公式の証人でした。同じ日の夜、確認を受けました。

主の使徒から何の妨げもなく教えを受けたこの3日間は、人生で最高の日々でした。別れはつらいものでした。キンボール長老はわたしにとって特別なモルモンの友達になっていたからです。

聖徒たちとの交流を切に求めて

キンボール長老が帰った後、わたしは改宗談を友達にしたのですが、あざけられました。しかし、この福音が真実であることを知っており、否定することができなかったため、わたしは別の仕事を見つけることにしました。父が以前にしていた衣類販売業を始めました。しかし、もっと教育を受けなければ自分は成長できないということが次第に分かってきたのです。当時20代半ばになっており、学生に戻るなど、考えただけで気のめいる話でしたが、その後9年間にわたって、わたしは教育を受けました。朝働き、夜は勉強しました。稼いだお金は全て教育につぎ込みました。固い決意をもって、神の助けを祈り求めました。心理学と社会学、美術の学部生としてアーグラ大学で学び、最終的には、メーラト大学に通って法律の学位を目指して勉強しました。

この9年間のうち最初の頃は、デリーに末日聖徒の家族が一家族住んでいました。アメリカ大使館で働くショートレフト家族です。わたしはデリーまで行き、この家族の家で聖餐を受けました。1962年には十二使徒定員会のリチャード・L・エバンズ長老(1906-1971年)、そして1964年には同じく十二使徒定員会のゴードン・B・ヒンクレイ長老(1910-2008年)が、わたしたちのもとを訪れました。花の冠をヒンクレイ長老の頭に飾り、何年もの間ためてきた什分の1の入ったつぼを手渡したことを覚えています。

このような交わりは有り難いものでしたが、残念なことに、めったにありませんでした。インドにいる間には、他の聖徒たちとの継続した交流はまったくできなかったのです。わたしは悩みました。時がたつにつれて孤独感にさいなまれるようになり、インドに自分の未来を見いだすことはできませんでした。神権を受けることと、聖徒たちの中で生活することを切に望みました。

開拓者になる

聖徒たちのところに行くのは今だと感じたとき、わたしは法律の勉強をやめてカナダに移住しました。アルバータ州エドモントンに降り立つと、最寄りのワードを探しました。ハリー・スミスビショップに会った瞬間、そのワードには自分の居場所があり、仲間との交わりが持てると感じました。当時はまだエンゲウメントを受けることができなかったにもかかわらず、アルバータ州カードストーン神殿に行きました。

ソルトレーク・シティーを訪れて、良き友であるキンボール長老とラマー・ウィリアムズ兄弟を驚





上——
インドで学生だった頃のディプティ兄弟。
下——ディプティ兄弟(左)。
インド出身の別の開拓者
ポール・トリスバダスとともに、
ソルトレーク・シティーの
テンプルスクエアにて。
左——
スペンサー・W・キンボール大管長は、
ディプティ兄弟の開拓者としての旅で、
重要な役割を果たした。



かせたいと思いました。バプテスマを受けて8年になる1969年の春、わたしはついに、ソルトレーク・シティーを訪れてキンボール長老に会ったのです。長老は喜び、終日わたしと一緒に過ごしてくれました。

ソルトレーク・シティー滞在中に散髪に行ったのですが、改宗者だという理髪師に証を伝えていると、順番を待っていた一人の紳士が、わたしの話をそばで聞いていて、インドに旅行に行ったときのことを話してくれました。この紳士はわたしの散髪代を支払い、わたしを車に乗せてブリガム・ヤング大学(BYU)まで連れて行ってくれました。わたしはキャンパスを見て感激しました。ここで勉強を続けたいと思いましたが、そんなお金はありません。それを言ったところ、その紳士は学費として1,000ドル出そうと言ってくれたのです。わたしは驚くとともに、深く感謝しました。

わたしはBYUの社会福祉学部に入りました。BYUを卒業した後、1972年にソルトレーク・シティーに移り、ユタ大学の修士課程で勉強を始めました。その後アメリカ合衆国カリフォルニア州に引っ越し、そこで臨床心理学の博士号を取得し、家庭内暴力防止のコースを教えたり、本を書いたりしました。現在は退職して妻のウェンディとともにアメリカ合衆国ネバダ州に住んでいます。

個人的な苦勞や試練、^{かんなん}艱難を経験した時期もありましたが、福音を中心に生活し、神殿の祝福を優先したおかげで、人生の試練の多くを克服することができました。

驚くべき主の計画

インドの片田舎の「ジャングル少年」だったわたしが今日ここにいら

れるようになるまでの経緯を度々振り返ると、わたしの人生と信仰は奇跡だということが分かります。主が織りなしてくださる人生は、わたしの想像を超えるすばらしいものです。人生の旅路の一番大切な時期に、主が油注がれた預言者であるスペンサー・W・キンボールがわたしを教え、わたしとともに歩んでくれたとは、何とすばらしいことでしょうか。

キンボール大管長と過ごしたときのことを、わたしはよく思い返します。大管長は、よくわたしを家族のキャンプやピクニック、感謝祭やクリスマスのディナーに招待してくれました。さすがにその頃は、キンボール大管長がまさしく主イエス・キリストの使徒であり預言者であることをわたしは知っていました。

わたしはキンボール大管長に、最後にもう一度会いました。大管長の病状はかなり悪化していたのですが、いつものようにわたしにほほえみかけ、抱き締めてくれました。キンボール大管長は、わたしが初めて会った末日聖徒です。そして、この大管長がわたしを忘れることは決してないことを、わたしは知っていました。

預言者と回復された福音を与えてくださったことを、主に感謝しています。この教会は、今日の世の中が必要とする神聖な模範です。この教会のおかげで、わたしは教育を受け、人間として成長することができました。祈りがかなうことを知った日に感謝し、静かな細い声に従ってこの教会について調べてよかったと思っています。自分の人生を主に形作っていただけてよかったと思っています。主の王国を求めるならば、その他のことは全て添えて与えられることを、わたしは知っています(マタイ6:33参照)。

語り手はインド・テランガナ出身です。



夫に先立たれた
ザレパテの女性のように――

断食献金の 奇跡

さらに惜しみなく断食献金を納めることについて考えていたわたしたちは、主にパンのひとかけらをささげれば、それと引き換えに必ず大きなパンのひとかたまりを頂くことができることを思い出しました。

ジョウカイヤン ジョウケンメイファ
周伯彦と周洗美華

世界中の多くの家族は、特に経済危機に際して財政的に苦しんでいます。¹数年前にわたしたちの地元のワードがそのような危機の影響を受けていることを感じました。数家族が助けを必要としていたのです。その年の初めに、ビショップはステーク会長からある勧めを伝えてくれました。それは、困っている人を助けるために惜しみなく断食献金を納めるようにという勧めでした。

それぞれの状況を見て、さらに惜しみなく断食献金を納めることができるかどうかを検討してほしい、と指導者たちから求められましたが、納めるべき具体的な金額については指示がありませんでした。しかし、御霊^{みたま}は何年も前に大管長会第一顧問のマリオン・G・ロムニー管長（1897 - 1988年）から与えられた勧告を思い出させてくれました。このように言ったのです。「わたしは、神の王国を築くために教会に何かをささげて、財政的に貧しくなることはありえないと固く信じています。……主にパンのひとかけらをささげれば、それと引き換えに必ず大きなパンのひとかたまりを頂くことができます。それはまさしくわたしが経験したことでした。もし教会員が断食献金を2倍にすれば、教会の霊性は2倍に高まります。わたしたちはそのことを心に留めて、惜しみなく献金する必要があります。』²

我が家にとって断食献金を増やすことは犠牲だということは承知していましたが、ロムニー管長の教えと約束について慎重に検討しました。すると、わたしたちの家族は豊かに祝福されてきたので、断食献金を増やしたいと強く感じました。

さらに、自分の家族が利己的な傾向を克服できるようにと望んでいました。物を手に入れ、自分の欲望を満たすことばかりに目が向く社会で生活しているため、わたしたちは子供たちが利己的な性格に育つのではないかと心配していました。しかし、スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985年）の言葉に希望を抱きました。「断食の律法を守る人は、放縦と利己心を克服する力の源を見いだすことだろう。」³

さらに惜しみなく断食献金を納めるようになって3か月の間に、わたしたちはたくさんの祝福を目にするようになりました。食品にお金を使わずに済みましたし、ガソリンタンクはいつもより減るのに時間がかかりました。子供はいつもより物を欲しがりませんでしたし、我が家から利己心がほぼ消えました。

例えば、地元で助け合い運動が行われ、食料を寄付したときには、子供たちがもっと寄付しようと言ってくれました。年に1度行っている、我が家の食料品の在庫調べをしたときには、実際には2年分の食料品があることに気づきました。さらに、以前は50ポンド（22.7キロ）入りの米袋を1か月で使い切っていたのに、そのときはその袋が2か月もちました。我が家の食料の蓄えは増えているように感じました。

わたしたちは、夫に先立たれたザレパテの女性の話を思い出しました。飢饉ききんのときに、預言者エリヤが夫に先立たれた女性のもとを訪れました。預言者に差し出す水もパンも持っていなかった女性はこう言いました。「あなたの神、主は生きておられます。わたしにはパンはありません。ただ、かめに一握りの粉と、びんに少しの油があるだけです。今わたしはたきぎ二、三本を拾い、うちへ帰って、わたしと子供のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。」（列王上 17:12）

預言者は彼女にこう約束しました。「かめの粉は尽きず、びんの油は絶えない。……」

彼女は行って、エリヤが言ったとおりにした。彼女と彼および彼女の家族は久しく食べた。」（列王上 17:14 - 15）家族の一食分しか残っていなかったかめは豊かにされ、家族

と他の人たちが何日も食べ続けることができました。わたしたち自身の断食をきっかけに、同様の奇跡が我が家にも起こっていました。

財政難のときに惜しみなく断食献金を納めて助けを必要としている人を支援することは難しいかもしれません。ザレパテの女性のように自分自身が助けを必要としているときには特にそうでしょう。惜しみなく断食献金を納めるには、その金額にかかわらず、主を信じる信仰と、主がわたしたちを世話してくださるという主の約束を信じる信仰が必要です。しかし、主は御自身の約束を守ってくださいます。わたしたちは自分たちの家族の経験から、進んで分かち合おうとすればするほど祝福を受けることを学びました。

ロムニー管長はこのように述べています。「貧しい人のためにだけ与えないでください。皆さん自身の幸福のためにも与えるのです。自分の財産や時間をささげることによって自分自身を神の王国にささげることができるよう、十分に与えてください。」⁴ さらに惜しみなく断食献金を納めることにより、わたしの家族は貧しい人を助けることに喜びを見いだし、家族は霊的に強められました。

パンをひとかけら進んでささげることにより、何かたまりものパンを頂きました。惜しみなく断食献金を納めることにより、食料の蓄えは倍に増してなお余りありました。主は確かに、5つのパンと2匹の魚を増やして5,000人の男性と女子供のお腹を満たし、さらにかご12個分のパンくずが余るほどにされました。それと同じ力で、夫に先立たれたザレパテの女性のかめを満たし、我が家の食料貯蔵を増やしてくださいました（マタイ 14:16 - 21 参照）。さらに、最大の祝福は、食料が増えるという形ではなく、家庭内の利己心が弱まり霊性が高まるという形でもたらされました。

惜しみなく断食献金を教会に納めるときに、たとえ納めるものが僅かであっても、主はわたしたちの努力を尊んで大いなるものとし、わたしたちの理解を超えた方法で祝福してくださいあかしすることを証します。■

著者はともにアメリカ合衆国ユタ州在住です。

注

1. ヘンリー・B・アイリング「（これは）わたしが選ぶところの断食……ではないか」『リアホナ』2015年5月号、22 - 25などを参照
2. マリオン・G・ロムニー、Welfare Agricultural Meeting, 1971年4月3日、1
3. スペンサー・W・キンボール「心の清い者となる」『聖徒の道』1978年10月号、127
4. マリオン・G・ロムニー「断食の祝福」『聖徒の道』1982年12月号、4



**断食——
神聖な特権を大切にす**

「断食の律法に従う人々には霊的にも物質的にも奇跡が訪れることを証します。そのような奇跡がわたしにも訪れたことを証します。まさに、イザヤが記しているように、わたしが何度も断食して叫び求めたときに神は『わたしはここにおる』と応えてくださいました(イザヤ58:9)。少なくとも月に1度、その神聖な機会を大切に、状況が許す限り惜しみなく、断食献金やその他の人道、教育、伝道のための献金をささげましょう。わたしは約束します。神はあなたを惜しみなく祝福し、あなたの援助を受けた人は永遠にわたってあなたを祝福された人と呼ぶでしょう。」

十二使徒定員会、
ジェフリー・R・ホルランド長老
「わたしたちは皆、
物乞いではないだろうか」
『リアホナ』2014年11月号、
42 参照

あなたが教える青少年を 理解する

あなたが教える青少年について知ろうと努力することで、
彼らの改心のきっかけが生まれます。

多くの青少年たちは熱意とエネルギーにあふれ、彼らを教え導くことは喜びとなることでしょう。しかし、成長し成熟する過程で困難に直面する青少年もいます。肉体的な変化に慣れることや学校でのストレス、福音に沿った生活をするのを思いとどまらせようとする文化的な圧力など、さまざまな困難があります。青少年には、彼らを理解し、関心を寄せてくれる教師が必要です。彼らが学び、学んだことを実践するための安全な環境を整えてくれる指導者が必要です。

以下は救い主の方法で計画し、準備し、教える際に青少年について知っておくと役立つ事柄です。

1. **青少年は教義を学びたいと望んでおり、また教義を学ぶ必要がある。**福音の標準からどんどん懸け離れていく世にあって、青少年は永遠の真理に飢えています。彼らは「現在のことをありのままに〔そして〕未来のこともまた、ありのままに」教えられたいと思っています（モルモン書——ヤコブ 4：13）。このような事柄は福音の教義の中にあります。あなたが教えるとき、聖典や生ける預言者と使徒たちの教え、そしてその他の教会の公式な資料にある教義に焦点を当ててください。これらの資料を自分で研究するよう青少年に勧めてください。教義には力強い影響力があります（アルマ 31：5 参照）。

2. **青少年は自らのアイデンティティーを確立している最中である。**青少年は自分が何者で、どのような人物になりたいか模索している最中です。将来果たす責任に備える中で、主が彼らのためにどんなことを計画しておられるか、そして自分に期待されていることを全て行えるかどうか不安に思うかもしれません。親や教師は、将来に対して青少年に自信を抱かせ、また将来に備えるための導きを与えることが

できます。彼らが神に一層近づき、福音の標準を土台として生活を築くことができるよう助けてください。神殿の大切さと、神の王国の建設における彼らの役割の重要性を教えてください。

3. **青少年はあなたが寄せる関心に気づく。**青少年が本腰を入れて福音を学ぶには、あなたが彼らを愛しており、一人



一人に関心を寄せていることを知る必要があります。彼らの話を聞きましょう。彼らの長所を見つけて、それをきっかけに関係を深めていきましょう。信頼を示し、彼らが大切な存在で必要とされていることを感じられるようにしてください。

4. **青少年はさまざまなことに興味がある。** 青少年の一人一人には独特な個性があります。彼らの個人的な興味や必要、直面しているチャレンジについて知りましょう。そのために、ふだんの集会やクラス、活動の範囲を越えて手を差し伸べる必要があるかもしれません。青少年について知るにより、あなたは御霊を通して彼らの必要について洞察や靈感を受け、彼らを教える方法が変わることでしょう。また、あなたが心から関心を寄せていることを青少年が生活の中で感じると、あなたの教えや証に対して彼らはもっと心を開くようになります。

5. **青少年は疑問に対する答えを見つけられる。** 年齢にかかわらず、福音に関する新しい見識を見いだすことは、学ぶ者にとって楽しいものですが、価値観や信念を確立しつつある思春期の若人にとっても同じです。福音のレッスンを個人

的に学び、かつそれを実践すると、永続的な影響があります。青少年に答えを教えるのではなく、自分で答えを見つけるように勧め、そうしたいと思わせるような教え方を用いましょう。それによって、福音を教える究極の目的、すなわち一層深い改心へと導くのです。

6. **青少年は互いに教え合うことができる。** 青少年は教えられている内容について自分の考えを述べたいと思っており、知っていることを分かち合うのを楽しみと感じます。模範と教えにより、あなたは救い主の方法で教えることを彼らが学べるよう助けることができます。彼らがレッスンの一部を教えたり、短い話し合いを進行したりするのを助けるとよいでしょう。そして彼らの経験や自信が増していくにつれ、時にはレッスン全体を教える機会を作ってもよいでしょう。青少年が互いから学び合うことで、異なる価値観を持つ人からの圧力に対抗する力を増し加えます。

7. **青少年は指導者となる資質を磨いているところである。** クラス会長会や定員会会長会は仲間を導く神聖な召しを受けています。しかし、たとえ彼らにリーダーシップの経験があっても、集会を進行したり、他の人が学び、教え導くのを助けたりする際にあなたの助けが必要です。他にも、家庭において青少年が有意義な役割を与えられるときに、リーダーシップについて学ぶ機会となることでしょう。

8. **青少年は親やその他の大人の手本から学ぶ。** 教師であるあなたの大切な責任の一つは、青少年と指導者と両親の間関係を強めることです。あなたは青少年が持つ多くの疑問に対する答えを彼らが自分で見つけるのを助けることができます。しかし、それらの中には彼らの両親や指導者から答えを受ける方がよいものもあります。両親に頼るよう青少年に勧め、家族のきずなを強めるよう励ましてください。クラスで学んでいる内容について両親に定期的に報告し、クラスの中で気づいた彼らの息子や娘の才能や成長、よい働きについて伝えてください。彼らが子供たちを教えるのをどう助けられるか尋ねてください。

青少年が改心するのを助けるには、両親と指導者、アドバイザー、セミナー教師を含めた教師たちがみんなで力を合わせる事が不可欠です。協力することで、個別に行う場合よりもっと効果的な学習環境を青少年たちに提供することができますようになります。■

さらに多くのアイデアを学ぶには、新しい手引き『救い主の方法で教える』の「青少年を教える」をご覧ください。(ウェブサイトは teachinglds.org)



「あなたがたの 幼い子供たちを見なさい」 ——子供の教え方を学ぶ

「イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。
……また、イエスは群衆に語って、『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』と言われた。」
(3 ニーファイ 17:21, 23)

あなたが親であるか、または子供を教えるために召されているなら、あなたには大いなる賜物^{たまもの}が与えられています。十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老はこう教えています。「[あなたは]今の時代の子供たちを、愛と信仰の炎と彼らの本質への理解をもって包み込むよう、神より任じられているからです。」¹

子供は喜びをもたらす、模範になりたいという思いにさせてくれます。子供の忠実さ、愛、信頼、希望をはっきりと理解すると、あなたはさらに主に近くなり、「幼な子のようにな[る]」(マタイ 18:3) という主の戒めをより深く理解するようになります。

子供を愛し、救い主が教えられた道を教えようと一生懸命に努力するとき、子供に関する次の8つのポイントを覚えておくとよいでしょう。

1. **子供には信仰心があります。** 子供は真理を素直に受け入れます。子供が理解できる言葉と例を使って、正しい教義を簡単にはっきりと教えてください。

2. **子供は御霊の影響を認識することができます。** イエス・キリストや福音について話したり、歌ったりするときに感じる平安や愛や喜びの気持ちは、聖霊からもたらされているということを教えてください。そのような気持^{あかし}ちが証の一部であるということを理解できるように助けてください。

3. **子供は頭に浮かんだことをそのまま理解します。** 複雑な比喩は子供を混乱させます。教えるときは、家庭、家族、子供の身近な世界など、慣れ親しんでいる出来事や活動を引き合いに出してください。

4. **子供は一生懸命学びます。** 子供はさまざまな経験や五感を使って楽しみながら学びます。視覚教材を見たりレッスンに参加したりするときに特によく反応

します。動き回ったり、探検したり、新しいことをやってみようとしたりする子供を認めてあげてください。

5. **子供は分かち合ったり、助けたりすることが大好きです。** 子供は自分の持っているもので、互いに教えたり、あなたに教えたりすることができます。自分が学んでいることを他の人にも教えてあげるように勧めてください。聖文を読んだり、絵を提示したり、質問に答えたり、ホワイトボードに書いたりする機会を与えてください。

6. **子供は愛する心を持っています。そして愛されたいと思っています。** 子供のごく自然な親切で愛ある行いを促すような機会を見つけてください。あなたの愛と感謝の気持ちを言葉で表現し、子供の言うことに注意深く耳を傾けることによって、自信を持てるようにしてあげてください。

7. **子供はあなたの模範に従います。** 自分で気づいていなくても、あなたはいつも教えています。教える原則にあなた自身がどう従って生きているか、子供たちは注目します。義になかったあなたの模範は、子供が証を築くうえで力強い影響を及ぼします。

8. **小さな子供が集中できる時間は限られています。** 子供が集中できないときは、疲れたり、おなかがすいていたりするときなのか、または、言われたことが理解できなかったり、動きたいか、退屈になっているときなのかもしれません。子供は、反復、変化、単純な物語、歌や活動を通して楽しみながら学びます。レッスンに参加するように励ましてください。■

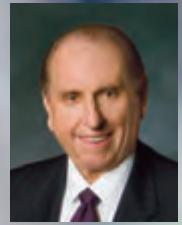
さらに多くのアイデアを学ぶには、新しい手引き『救い主の方法で教える』の「子供を教える」をご覧ください。(ウェブサイトは teaching.lds.org)

注

1. M・ラッセル・バラード, “Great Shall Be the Peace of Thy Children,” *Ensign*, 1994年4月号, 60

レッスン資料

初等協会や家庭の夕べのレッスンを豊かにするために物語や視覚教材、ビデオが必要ですか。LDS.org をご覧ください。lessonhelps.lds.org (英語) では、初等協会のレッスンや、テーマごと、カテゴリーごとの役に立つ資料を見つけることができます。教えるための新しいヒントも毎週掲載されます。



「子供たちの笑い声がわたしたちの心を和ませ、子供たちの信仰がわたしたちの心を慰めてくれますように。子供たちの愛がわたしたちの行動を促してくれますように。」

トーマス・S・モンソン大管長
「大切な子供たち——
神からの贈り物」
『リアホナ』2000年6月号、
9 参照



マリオン・D・
ハンクス長老
(1921 - 2011年)
1953年から1992年まで
七十人として奉仕

神殿における礼拝

——神を知るための鍵

わたしたちは神殿で、キリストが地上で生きられたように生きることを学び、主と御父が今生きておられるように生きるための備えをすることができます。

わたしはソルトレーク神殿の神殿会長として奉仕を始めて間もない頃に、ある参入者と初めて交わした会話を、今でもよく覚えています。真剣さと不安の入り混じった会話でした。とても思慮深い若い女性で、学びの家、教えを受ける宮としての神殿の役割に関する聖句をよく読んでいたようでした。神とキリスト、すなわち「唯一の、まことの神……と、また、あなたがつかわされたイエス・キリスト」を知ることが「永遠の命」であることを認識できるほど洞察力のある人でした(ヨハネ17:3)。また、わたしたちがキリストを通して御父を知ることを学び、ついには御父のもとに戻れるということも分かっていました。

わたしが彼女に証したのは、自分にとっては神殿内の全てのことが、最終的にキリストと御父を指し示しているということでした。神殿での儀式や聖約が有効なのは、主の贖いの愛があって、権能、すなわち「神の御子の位に従う聖なる神権」を委任されているからです(教義と聖約107:3)。しかし彼女の頭と心にはまだ、神殿での礼拝が主を知るうえで欠かすことのできない鍵になり得るといった認識がありませんでした。……

キリスト、聖文、神殿、家庭

わたしたち自身を清めるために、神殿は最も重要な場所となります。神殿でキリストについて学ぶことによって自らを聖め、それによって主をじかに知るようになり、主への証と知

識を得て、人生で最も価値のある賜物へと導かれるのです。

神殿で学び、礼拝することは、イエス・キリストを通して永遠の命を受ける大学に行くようなものです。カートランドでの奉獻の祈りには、このような主への嘆願があります。——「聖なる御父よ、この宮で礼拝するすべての者が……知恵の言葉を教わり……

また、彼らがあなたにあって成長し、聖霊の全きを受け……られますように。」(教義と聖約109:14-15)

これは社会的行事や宗教上のしきたりによって成し遂げられるのでしょうか。アダムとエバが死すべき体を受けたばかりのときに理解できるようになったと同じように、目的や象徴的な意味を理解するという意味においては答えは「はい」です。しかし、基本的にわたしたちは、述べられる言葉の内容、永遠の成長すなわち永遠の命の原則を通して学びます。主と交わす聖約は、幾つかの簡潔な原則に基づいているのです。パウロがローマ人へ宛てた、わたしたちはキリストの死によって神との和解を受け、「彼のいのちによって」救われる、という言葉思い出してください(ローマ5:10)。これはわたしにとって、主がその神聖な生涯を通して示された原則によって、昇栄として知られる完全な救いに導かれることを意味しています。昇栄とは、神の次元において御父と御子とそして愛する人々との、愛や学び、奉仕に満ちた、成長を伴う創造的な生活です。わたしたちは神殿で、キリストが地上で生きられたように生き、主と御父が今生きておられる



ように生きる方法を学ぶことができます。

キリストの生涯の中心を成す原則

神殿で教えられ、主と交わす聖約に関係のある、主の生涯の中心を成す原則とは何でしょうか。……………

主が愛された方法は、おそらく主御自身と御父のみにしか理解できないのかもしれませんが、わたしたちはそれを学び、人に与えられるほど愛することを学ぶためにこの世に来たのです。戦場や病室、あるいは目立たないところで、親や子のために自らを顧みない献身的な行為が行われてきたのを見ると、世の中には真に主の方法で愛し、犠牲を払うことを学んだ人々がいることが分かります。

人々に与え、思いやりを示し、恵み深く親切にすることを選ぶとき、わたしたちはそれが福音の選択的要素ではなく、まさに真髄であることに気がつくのです。良識と敬意、無私
の精神、礼儀、品位が求められています。結局最も大切なのは、わたしたちがどのような人で、何を提供しようとしているかということなのです。……これは主の導きを学び、受け入れながら、毎日、毎時間決断していることなのです。

救い主のはりつけと復活、昇天の後、残された弟子たちは、一時は苦難の中で主の信頼に添うことができなかったペテロに導かれていました。その弟子たちに、あることが起こりました。ペンテコステ（聖霊の降臨）です。信仰が揺らいでいた人々は強い証をもって立ち上がり、証したのです。使徒行伝の第1章から第5章にその話が出ています。第5章の最後の数節は劇的です。ガマリエルは同僚の学者たちに向かって、弟子たちにもう少し時間の猶予を与えるように説得しました。そして弟子たちは、キリストについて語ったり教えたりしないようにもう一度戒められ、むち打たれた後に解放されました。彼らは、キリストの御名のために恥を受けるに足る者とされたことを喜びながら建物を出たと記録されています。それから、「毎日、宮や家で、イエスがキリストであることを、引きつづき教えたり宣べ伝えたりした」のです（使徒5:42）。

わたしたちも同じように、神殿を出るとき心に何かを感じ、第3ニーファイ第17章3節で教えられているようにしなければなりません。「だから、自分の家に帰り、わたしが述べたことを深く考えなさい。そして、理解できるように、また明日のために心が備えられるように、わたしの名によって父に願いなさい。わたしはもう一度あなたがたのところに来るであろう。」

神殿での礼拝が持つ清めの力

清めの霊は特別な方法で、主が歩み照らしてくださった道を歩めるようにしてくれます。つまり、わたしたちは新しい人となって主を愛し、愛と兄弟愛を実践し、主の御心に従って奉仕し、分かち合い、愛し、健全な標準に忠実に従うようになるのです。

家族の生活を清め、家庭を日タイエス・キリストについて「教えたり宣べ伝えたり」するだけでなく、常に主に従う場にするのです。家庭と家族が、また一人一人の生活が学びの中心、無私と奉仕の中心となるべきです。ルーファス・ジョーンズ
の言葉を借りれば、「聖徒は、聖人のような身なりや、心に秘められた靈感を求められているのではなく、光と力が集まる中心となることを求められています。真の聖徒は、良き母親、良き隣人であり、社会を発展させる原動力であり、快い雰囲気（かも）を醸し出し、祝福となります。真の聖徒は活力に満ちたクリスチャンであり、天で完全に実現するような生活の特徴をはっきりと示すのです。」¹

神殿の意味と神殿での礼拝の意味を理解するために、わたしにとって分かりやすく重要な鍵となっている事柄について考えてみましょう。主は、預言者ジョセフ・スミスが1836年にカートランド神殿の奉献式でささげた祈りの中で、次のことを明らかにされました。この祈りは教義と聖約の第109



章になっています。基本的な神殿の意味を理解したいと心から望む人は、この章を何度も読むべきです。特に感動的で力強い最初の24節を読んでください。第5節はすばらしい言葉であり、深く思い巡らす価値があります。「あなたは、わたしたちがひどい^{かんなん}艱難を経てこの仕事を成し遂げたことを御存じです。人の子がその民に御自身を現す場所を得られるように、わたしたちは、あなたの御名のために宮を建てるため、貧しい中からわたしたちの持ち物を差し出しました。」(教義と聖約109:5, 強調付加)

主は神殿の中で、主の民にどのようにして御自身を現されるのでしょうか。

わたしはおもに、神殿における美しく、かつ心を引きつける原則、儀式、聖約、神殿での礼拝を通して現されると信じています。また、心と思いが^{みたま}御霊と調和しており、忍耐強く、自らの生活をより主に近づけたいと望む人が神殿で得られる啓示の霊や他の御霊の賜物を通して現されると信じています(3ニーファイ27:21, 27参照)。

神殿で主の業に辛抱強く奉仕する人には、霊的な強さが与えられます。これを理解してもらうには、一つ例を挙げれば十分でしょう。ある朝、わたしは4時30分頃に神殿に着き、深い雪をかき分けて家から神殿まで無事に来られたことを感謝しました。ひっそりとした部屋で、高齢で信望の厚い友人が、杖に寄りかかって考え事をしているのを見かけました。わたしと同じように、白い神殿衣を着ています。わたしは明るく挨拶をし、こんなに早い時間にそこで何をしているのか尋ねました。

「ハンクス会長は、わたしが何をしているのかお分かりですよね。儀式執行者として、ここでその務めを果たしているのです」と答えました。

「それは分かっていますよ。ただ、この大雪の中、どうやってここまで来たのですか。パーリーズキャニオンは通行止めで、バリケードで封鎖されているとラジオで今聞いたのですが」とわたしは聞きました。

彼はこう言いました。「わたしには木でもよじ登れる四輪駆動の車がありますからね。」

「わたしの車も四輪駆動です。そうでなければ無理でした。それにほんの数キロの所に住んでいますから」とわたしは返しました。

そして、ニュースで言っていた峡谷のバリケード封鎖をどのように通過したのか尋ねました。それに対する答えは、この牧場主でステーキ会長である彼のイメージどおりでした。



彼に初めて会ったのは、あるステーキ大会の各集会を前に、その日の午後を一緒に過ごしたときで、馬を駆る強たくましい男という印象でした。彼の体は、今ではリウマチと加齢のために小さくなり、余命いくばくかと思えるほどで、動くたびにあちこちが痛みました。その朝の彼の答えはこうです。「ハンクス会長、わたしは地元の警官たちとは旧知の仲で、ほとんどは生まれたときから知っているんです。彼らは、わたしがどうしてもそこを通らないわけにはいかないことも、しかも必要なら道を外れ山を越えてでも行くということも知っています。わたしのトラックのことや、運転技術のことも知っているの、必要とあらばバリケードをどかしてくれるのです。」

信仰深く、忠実なこの男性は、神聖な奉仕を始めるために、朝のその時間にその場にいたのです。神殿が育てるのは、このように信仰があり、献身的に働く人物なのです。■

1993年2月にブリガム・ヤング大学で行った説教から。全文はドナルド・W・パリー編、*Temples of the Ancient World*, (1994年)に掲載されています。

注

1. Rufus Jones Speaks to Our Time (1961年), 199



七十人
ジョセフ・W・
シターティ長老

聖約を守ることにより 神を尊ぶ

神を信じる信仰の最大の祝福は、
聖約を守ることで神を尊ぶことによりもたらされます。

19 85年、ケニアのナイロビで、シターティ姉妹とわたしはロジャー・ハワードという名の男性に会いました。彼とその奥さんであるアイリーンは、当時、夫婦宣教師として奉仕していました。二人に招かれ、その自宅で開かれる小さな集會に出席しました。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員の集會に出席したのは、それが初めてでした。わたしたちは、その初めての集會で御霊を感じ、それ以来、毎週教会に出席しています。

数か月後、わたしたちは9歳の息子とともに、ロジャーからバプテスマを受けました。その後間もなくして、ロジャーとアイリーンは伝道を終え、帰国しました。二人は数年に1度は便りをくれました。

2010年の初めに、シターティ姉妹とわたしは、やっとのことでロジャーと再会しました。ロジャーは90歳近くになっていました。高齢と病でやつれ果て、歩行器にしっかりと寄りかからずにはいられない状態でした。本当に久しぶりで顔を合わせたわたしたちは、互いに表現しがたいほどの喜びを感じました。そのような思いを込めて抱き合ったとき、涙がとめどもなく流れ落ちました。互いに対して、また福音の驚くべき賜物に対して深い感謝の念を抱きました。神の王国の同じ民として、わたしたちの信仰は一つでした。

そのとき喜びに満たされていると、わたしの心に次の聖句が思い浮かびました。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。……

あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽

くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:10, 15)

神の最大の祝福の幾つかは、人々を神の王国に導く人に約束されています。救い主はその思いを次のように明かしておられます。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。」(ヨハネ15:16)

ロジャーはその数か月後、この世に別れを告げました。神とともにあって平安な人生だったに違いないとわたしは感じました。ロジャーは福音を分かち合うことで、わたしたちの人生に深い影響を及ぼしました。同胞に対する彼の献身的な奉仕の模範、さらには教会で奉仕する大勢の若い宣教師と夫婦宣教師の模範から、神を尊ぶ一つの方法を知ることができます。

聖約による神とのつながり

イエス・キリストの回復された教会の会員であることにより、わたしたちはそれぞれ、聖約を通して天の御父と揺るぎない個人的な関係を持つことができます。それぞれの聖約は儀式により確かなものとなります。儀式を通して、わたしたちは喜んで聖約を受け入れ、守ろうと決意します。わたし



私たちは主を信じる信仰を行使するとき、イエス・キリストの贖罪しよくざいにより、それぞれの聖約に含まれる務めを果たすことができます。

全ての救いの聖約と儀式を交わし、守ることにより天の御父との関係を深めるときに、わたしたちは天の御父を尊びます。御父は聖約を守る人に、祝福として、導きと力を与える御霊を注いでくださいます。以下に、わたしたちと天の御父の関係を強固にする最も大切な聖約を紹介します。

バプテスマの聖約

バプテスマは、わたしたちと神の関係を強固にする最初の聖約です。その儀式を受けるのにふさわしくなるのは、「神の前にへりくだって、……打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出て、自分のすべての罪を心から悔い改めたことと、……自分の罪の赦しゆるを得るようにキリストの御霊を受けたことを〔わたしたちの〕行いによってまことに明らかにする」(教義と聖約 20:37) ときです。

わたしたちは「最後までイエス・キリストに仕える決心をして進んでイエス・キリストの名を受け」(教義と聖約 20:37)、「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、……悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、……いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になることを望む」(モーサヤ 18:8-9) ことを行動によって示すとき、聖約を守っていることとなります。

それに対して、神はわたしたちを尊び、聖霊の賜物を授けてくださいます。聖霊の賜物によりわたしたちは、あらゆる面で導きを与えて永遠の命へ導いてくださる聖霊を、常に伴侶とすることができるのです(モーサヤ 18:9-10 参照)。

わたしはバプテスマを受けた後、御霊に満たされて深い喜びを感じました。それ以来、神を特に近くに感じるときは、その気持ちがずっと続いています。

神権の誓詞と聖約

バプテスマの聖約を守る男性は神権の誓詞と聖約を交わす資格を得ます。わたしたちはあんしゅ按手の儀式を通してその聖約を受けます。神権の聖約は、神の子供たちを救うための奉仕の聖約です。わたしたちは召しを尊んで大いなるものとするとき(教義と聖約 84:33 参照)、また「〔わたしたち〕

の心と、勢力と、思いと、力を尽くして神に仕え」(教義と聖約 4:2)「神の栄光にひたすら目を向けて、信仰、希望、慈愛、愛」(教義と聖約 4:5)をもってそうするとき、神を尊ぶことができます。

忠実な神権者にもたらされる主の祝福には、「御霊により聖められてその体が更新される」(教義と聖約 84:33) ことも含まれます。彼らは、モーセやアブラハムの祝福を受け継ぐ者となるのです(教義と聖約 84:34 参照)。末日の預言者と使徒たちは、神権を尊んで大いなるものとしている人の良い例です。彼らの人生を見れば、主が彼らを尊んでおられることが分かります。

神殿の儀式と聖約

大神権を持つふさわしい男性と、ふさわしい女性は、神殿で神聖な儀式を受けて聖約を交わすことができます。神殿の儀式と聖約を通して、わたしたちは現世の目的を理解し、永遠の命に備えることができるようになります。儀式を受け、永遠の結婚の聖約、さらには家族との結び固めの聖約を交わします。わたしたちの命を、神と神の全ての子供たちを救う業に奉獻すると決意します。これらの聖約を忠実に守ることによって、わたしたちは現世における試しを克服し、昇栄、すなわち神がその子供たちにお与えになる最も大いなる祝福を得るための霊的な導きと力を受けることができます(教義と聖約 14:7 参照)。昇栄、すなわち永遠の命とは、家族として、天の御父が送っておられるような崇高な生活にあずかることです。

聖餐

教会員は、毎週の安息日に、ふさわしい状態で聖餐を受ける必要があります。この儀式を受けることで、わたしたちは続けて、また喜んでイエス・キリストの御名みなを受け、決意を新たに全ての聖約を守ることを確認します。最後まで堪え忍び、義にかなった生活を送ることができるよう、イエス・キリストの贖罪の力を呼び求めます。そうすることで、わたしたちは自らが交わした全ての聖約に伴う全ての祝福にふさわしくなります。

義にかなった望み

聖約を破ることは神に背くことであり、約束された祝福を



わたしたちは
主を信じる信仰を
行使するとき、
イエス・キリストの
贖罪により、
それぞれの聖約に
含まれる務めを
果たすことができます。

受けられなくなります（教義と聖約 82：10 参照）。

サムエル記上第 2 章 12 - 17 節、22 - 34 節から、わたしたちは祭司エリの息子たちが行った罪悪について学ぶことができます。この二人の息子は父親の地位を利用して、神権の聖約を破りました。女性参拝者との不道徳な行為にふけり、イスラエルの民がささげた犠牲の肉を不正な方法で独り占めにより、みだらな欲望を満たそうとしたのです。主はエリの息子たち、また彼らを制し切れなかったエリ自身に対して、厳しい裁きを下されました。

そのような肉の欲望は、エジプトにおけるヨセフがみだらな不信者に対して取った行動からも分かるように、神との聖約を守ると決意することで克服できます（創世 39：9、

12 参照）。神はヨセフを尊び、ヨセフが自分の前に立ちだかる全ての悪だくみを克服できるようお助けになりました。彼はエジプトで 2 番目に影響力のある人物となり、神の御手に使われて、イスラエルの氏族を守るまでになりました（創世 45：7 - 8 参照）。

誘惑に負けてしまっても、天の御父との関係を回復したいという望みがあれば、心からの悔い改めへと導かれます。そして、救い主イエス・キリストの贖罪は、わたしたちがもう一度ふさわしくなるよう助けてくれます。

預言者に従う

キリストは御自分の教会を建てられたとき、使徒、預言者、伝道者、牧師、教師をお選びになりました。それは「キリストのからだを建てさせ、

わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るため〔した〕。」（エペソ 4：12 - 13）

また教会の預言者と使徒は次のように教えています。「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとって確立され、維持されます。」（『家族 —— 世界への宣言』『リアホナ』2010 年 11 月号、129）

わたしたちの家庭と家族は、聖約に基づく神との強い関係を築くための土台を提供してくれます。生ける預言者の靈感された教えに従うならば、わたしたちは強い家族を築き、戒めを守る力を得、信仰がもたらす最大の祝福を確かなものとすることができます。■

福音を紹介してくれてありがとう

19 80年代初頭、わたしの家族は西ドイツに住み、ドイツのカイザーラウテルン軍人ステークに所属していました。当時、地元の指導者は伝道活動に力を入れていました。わたしたちの友人の中に、イエス・キリストの福音を求めている主の選ばれた子供たちがいると指導者は言いました。

わたしと妻のジェニーはその言葉が真実だと信じていました。指導者はわたしたち一人一人に、会員ではない友人の中から、福音に興味がありそうな人を挙げるように勧めました。10人ほどの人の名前を書き出し、断食と祈りによってその人々について考え、最初に声をかけるべき相手を決めるのです。わたしたちは、わたしと同じ職場で働く二人の男性に声をかけることにしました。わたしは最初にクリスという独身の青年に声をかけましたが、そのとき彼はあまり興味を示しませんでした。わたしたちは次にブルース・ハンビーに働きかけることにしました。ブルースは善良で親切な男

性で、奥さんと幼い子供がいました。

しかし、数日が過ぎ、わたしは福音についてブルースに話そうとするたびに緊張してしまいました。とうとうある日、ジェニーが職場に電話してきて、こう尋ねました。「ブルースに話したの?」「まだだけど、もうすぐ話すよ」とわたしは答えました。するとジェニーは、ブルースが職場にいるか尋ねるので、出勤していると答えると、彼女はこう言いました。「スコット、受話器をそのまま置いて。あなたがブルースと話している間、待っているわ。」

わたしは受話器を置いて、緊張しながらブルースのところへ行き、こう尋ね

ました。「ブルース、わたしが末日聖徒イエス・キリスト教会の会員だって知っていたかな。」彼は知っていると言ったので、わたしはこう言いました。「教会についてもっと詳しく知りたいと思うかい。」すると、ブルースは「ええ、知りたいですね」と答えたのです。

それから数週間、ブルースと彼の奥さんのエラと娘のターニャが我が家に来て、一緒に夕食を食べ、宣教師と会いました。彼らはレッスンを学び、わたしたちと一緒に教会の集会に出席し、福音を受け入れ、バプテスマを受けました。実にすばらしい、幸福な日でした。ブルースはわたしたちが彼の家族に福音を紹介したことを感謝していました。同じ職場の青年クリスもバプテスマ会に出席し、感銘を受けたようでした。その後、ブルースとエラは福音を紹介するためにクリスに働きかけました。彼らの働きかけが実を結び、クリスは宣教師から教えを受け、教会に入ったのです。■

スコット・エドガー（アメリカ合衆国、ユタ州）

「スコット、
受話器をそのまま置いて。
あなたがブルースと話している間、
待っているわ」
と妻は言いました。



驚いたことに、あまり活発に教会に
集っていない一人の姉妹に廊下で
会ったのです。彼女は慰めと助けを
必要としていました。



力不足だと感じました

扶助協会会長に召されたとき、わたしは若い母親として、忙しい生活を送っていました。教会員の家庭で育ち、教会の教えに従って生活していましたが、自分が完全でないことを承知していましたし、ワードの困っている姉妹たちを助ける力が自分にあるのか不安に思いました。

ある日曜日、教会で、わたしは特に落ち込んでいました。一日中、助けが必要な姉妹たちに呼び止められていたのです。福祉の助けが必要な姉妹たちもいれば、ただ話を聞いてほしいだけの姉妹たちもいました。そんなとき、聖餐会が始まって中に入らないようにという御霊の促しを感じました。すると驚いたことに、あまり活発に教会に集っていない一人の姉妹に廊下で会ったのです。聖餐会が終わるまで待てない緊急の慰めと助けを必要としていました。

教会が終わる頃、わたしは疲労困憊していました！車^{ひろうこん}で家に帰る間中、泣き続けました。頭の中で「ビショップに相談しなさい」という言葉が鳴り

響きました。ビショップなら、どうしたら召しを負担に感じないでいられるか賢明な言葉を言ってくれるだろうと思いました。でも、教会での長い1日の終わりに面倒をかけるのは申し訳ないと思いました。電話するのをやめようと決めるとき、電話が鳴りました。ビショップからでした。わたしに電話すべきだという促しを感じたのです。

わたしは一度にたくさんのごことを解決しなければならず本当に疲れ切ってしまったこと、そしてもっと多くの姉妹を助けられずとても悲しく思っていることをビショップに伝えました。ビショップは辛抱強く耳を傾けてくれました。その日持ち上がった福祉に関する質問についても話し合い、わたしの気持ちは少し楽になりました。

話が終わると、わたしはこう言いました。「どうしたらそれほど負担を感じないでいられるのか悩んでいたわたしに、賢明な言葉を掛けてくださるだろうと思ったのですけど。」ビショップは、そういうことが言えたらよいのだけれど、残念ながらできないと答えました。

質問には答えてもらえませんでした。受話器を置いたとき、わたしの心

は晴れていました。主がわたしの必要に応じて導きと支えを送ってくださったと感じました。

それからの数週間に再度不安な気持ちを感じましたが、より良い扶助協会会長となるために何をすべきか分かるように祈りました。ある日、総大会のお話を聞いているときに心に留まった言葉があり、御霊がわたしに強く語り掛けました。あれほど力不足だと感じた理由が分かりました。自分だけの力では確かに力不足だったからです。

ビショップは、聖霊の声に耳を傾けることがどれほど大切か、模範を通して教えてくれました。教会の召しを果たすうえで鍵となるのは自分の才能やスキルではなく、御霊なのです。わたしは久しぶりに平安と確信を感じることができました。

まだ経験不足ですし、家族の世帯で忙しいことに変わりはありませんが、完全に召しを果たさなければならぬと感じることはなくなりました。戒めを守る限り、天の御父はわたしたちが御心を果たし、その努力を大いなるもの^{みこころ}にできるよう必要なことを提供してくださるからです。■

匿名(スウェーデン、ストックホルム)

祖母を見いだす

わたしには後悔していることが一つあります。父方の祖母と膝を突き合わせ、彼女の生涯について話し、子孫のために彼女の思い出を記録しなかったということです。祖母が亡くなった後で、父とおじたちがよく言っていました。彼女は自分のことをつまらない人間だと思っていて、こう尋ねたことすらあるということです。「わたしのことを知りたい人などいるのかしら。」

そんな折も折、経済的に苦しくなったために、わたしたち家族はやむを得ず祖母の古家に引っ越すことになりました。それがきっかけとなり、楽しい思い出があふれんばかりによみがえるとともに、後悔の念に見舞われたのです。引っ越して数日がたったある夜のこと、わたしは祖母の数冊の古いアルバム、そして箱に収められた形見の品に目を通していました。形見の中には、おじが書いた古い手紙、古い神殿推薦状、さらには祖父の葬式の式次第もありました。こうした思い出の品を見た後で思いました。もっとないだろうか。

促しを受けて、屋根裏部屋をのぞいたところ、すぐに一つの袋が目にとまりました。袋の中には、ごみ箱に捨てられてもおかしくないような古い青色のバインダーが入っていました。そのバインダーの中に、祖母が30年前に書いた伝記の初めの部分を見つけました。後で分かって驚いたのですが、家族の誰もこのような記録があることすら知りませんでした。父やおじたちが言ったことは正しかったのです。祖母は自分のことをつまらない人間だと思い込み、伝記を書き始めたことを誰にも伝えなかったのです。

その夜、わたしは8ページの伝記に記された言葉を一つ残らず読みました。そうしているうちに、例えば、高校生活の様子、祖父とのなれ初め、祖父とともに経営していた映画館を閉館するときのつらい気持ちなど、祖母についてたくさんを知りました。

それらのページを読みながら、祖母の存在を感じました。それはまるで、わたしが実行しそびれた祖母の口述記録について、本人からもう心配しないでと言われていたようでした。祖母が手ずから記した生涯の記録を読むのは、紛れもなく、貴いことであり、それまで長い間抱いてきた後悔の念を和らげてくれました。この経験を通して、主の深い^{あわ}憐れみを再確認し、家族

歴史は自分たちがこの現世で知らなかった先祖について調べることだけではないという証^{あかし}を得ました。家族歴史は、心から愛する人々や、この地上とともに貴重な時間を過ごした人々について再発見することでもあるのです。

家族の一員と膝を突き合わせ、彼らの歴史を書き留めると、自分のことを知りたいと思う人なんているのだろうかと思われれます。そんなとき、わたしは次のように言い、納得してもらいます。あなたの体験は話す価値がありますし、その話を聞く子孫は感謝することでしょう。計り知れないほど貴重な記録を残してくれた祖母に、わたしが感謝しているのと同じように。■
ルーベン・ワズワース(アメリカ合衆国ユタ州)



地球の裏側にある神殿

わたしは10代の終わりに、家族の反対を押し切って教会に入りました。そして20代の頃、父が亡くなってから家族歴史を調べ始めました。そのうちに、妻として、また、幼子供たちの世話をする母親として忙しさに追われ、家族歴史まで手が回らなくなりました。

家族で教会員はわたしだけだったので、家族歴史を調べたいという強い望みは持っていました。調べるのが好きでしたし、時間ももっとあればいいのにといつも思っていました。

しかし33歳のときにわたしは体を壊し、人生が予期せぬ方に向かったのです。以前は家族と一緒にハイキングに行けたのに、近所を少し歩くこと


すら困難になりました。2時間も掛からなかった土曜日の掃除ができなくなり、掃除機をかけられただけでも満足するほどになりました。大勢いた友人たちと以前のように付き合うことができなくなったため、交友範囲も狭くなりました。

家族歴史を再開したのは、ちょうどそんなときでした。娘が夫の先祖を調べ始めましたが、わたしには数年かかったことを娘は一晩で済ませてしまいました。わたしは自分の先祖を何代か遡^{さかのぼ}って調べ、神殿に提出して儀式を執行してもらえるようにしました。自分の親族の神殿の儀式は自分で受けたいと常々思っていたのですが、神殿までの距離や体調を考えるとそれは

不可能でした。

名前を提出した後、わたしは泣き出してしまいました。先祖を失望させてしまうと思ったからです。親族の儀式が行われる特別な日に、立ち会うことができないのですから。1週間後、ファミリーサーチのサイトにログインして儀式の進捗状況を見て、とても驚きました。儀式が完了してただけでなく、それがガーナ・アクラ神殿の会員たちによって執行されていたことが分かったからです。わたしの親族の数人の神殿の儀式を、地球の裏側に住む会員たちが行ってくれたことを知って、本当に驚きました。ガーナに住む人たちが、わたしの親族のためにどれほど犠牲を払って神殿に行ってくれたのかと思うと、また涙があふれてきました。神殿に参入して親族のために神殿の儀式を受けるといふ、自分ではできなかったことを行ってくれたガーナ・アクラ神殿の神殿地区の会員の皆さんに、心から感謝しています。

ロビン・エスタブルックス
(アメリカ合衆国、バージニア州)



促しを受けて、
屋根裏部屋をのぞいたところ、
すぐに一つの袋が目にとまりました。
袋の中には、ごみ箱に捨てられても
おかしくないような古い青色の
バインダーが入っていました。

早期の 帰還に 向き合う

ジェニー・ロリンズ

父が出張で留守だったため、足を引きずりながら伝道地からの飛行機を降りたわたしを迎えてくれたのは母だけでした。母は抱き締めてくれ、わたしたちは泣きました。

受けられる検査は全て受けましたが、医師たちは原因を見つけられませんでした。9か月早く宣教師の名札を外すことは、それまで経験したことがないほどつらいことでした。伝道を最後まで終えなかった自分は落伍者だと感じました。

なるべくしてなった宣教師

ずっと前から宣教師になろうと決めていました。兄が伝道に出るとき、わたしは宣教師のような服装で、自分で作った名札を付けて見送りました。2012年、伝道に出られる年齢が変わると発表されたとき、わたしはちょうど19歳になったところで、この発表は祈りの答えだと分かりました。わたしは部屋で踊り回り、その日のうちに申請書類を書き終え、健康診断の予約を取り、その週のうちに全ての書類

**伝道から
予定より早く帰還することは、
たとえ健康上の理由であっても、
非常につらい経験と
なることがあります。
わたしにとってはそうでした。
しかし、その経験を、
後退するのではなく、
一步前へ進む経験にすることが
できます。**

を提出しました。2週間後にカリフォルニア州アナハイム伝道部への召しを受け取り、その2か月後には宣教師訓練センターに入所しました。

「新米宣教師」の情熱をもって伝道地へ向かい、猛烈に働きました。トレーナー（先輩同僚）とわたしは、文字どおり走ってレッスンを教えに行くことがありました。教えるのが本当に楽しかったのです。専任宣教師でいることは、わたしにとってこの世で最も自然なことでした。不器用で

悩むこともありましたが、宣教師でいられること以上に素晴らしいことはありませんでした。

伝道が8か月目に入った頃、宣教師の使う車が不足し、同僚とわたしは自転車で伝道することになりました。長いこと自転車に乗っておらず、どうやってスカートで乗るのかさっぱり分かりませんでした。それでも楽しみにしていました。しかし数週間すると、ときどき体の脇に痛みを感じるようになりました。それでも無視して働き続けました。

痛みはだんだんひどくなり、より頻繁に起こるようになりました。そして、とうとうある晩、同僚に連れられて救急治療室に行かなければならませんでした。たくさん検査を受けましたが、医師は痛みの原因を見つけることができませんでした。

次の週、痛みがなくなるように天の御父に祈り、何度か神権の祝福を受けましたが、ひどくなる一方でした。どんな姿勢でいても、絶えず痛み続けました。しかし痛み慣れようと決心





して伝道を続けました。

ある日、道端に倒れ込んで動けなくなってしまいました。病院に運ばれて検査を受けましたが、結果は同じでした。わたしはあまり無理をしないように、同僚と一緒にバス停のベンチに座って、バスを待つ人たちに教えることにしました。レッスンの間中、痛みを紛らわそうと唇をかみながら座っていました。結局無理をしまい、病院に再び行くことになりました。このまま伝道を続ければ、回復不能な損傷を引き起こす危険があると気づきました。多くの祈りをささげた後、健康上の問題を解決するために帰還するべきだという答えを受けました。

一歩前に進む

本当に帰還してしまったと実感すると、わたしはひどく落ち込みました。しかし、信仰を持ち続け、聖文研究を続けようと努力しました。家族はうまく対処してくれましたが、周りの人たちはどうすればいいのか分からないようでした。次々に質問を投げかけられ、悲しい気持ちを抑えるのがやっとでした。しかし、ある男性が思いがけず電話をくれ、息子さんが随分前に伝道から早く帰還したことを話してくれました。この試練がわたしの信仰と幸せを損ないかねないこと、そして実際、早期に帰還した多くの宣教師がそのような状態と言いき、こう続けました。「忘れてはいけないのは、自分がコントロールできないところで何が



正しい生活をしようと一生懸命努力している限り、いつも前進しているのです。

起こっても、正しい生活をしようと一生懸命努力している限り、いつも前進しているということなんだよ。」

それはわたしのモットーとなり、次の1年は大いにそれに頼って過ごしました。8か月間ほとんど歩けない状態にあったときにも、早期に帰還したことが分かるとうわたしを裁く人々がいました。もっと悪い病状でも最後まで奉仕をした人がいると言うのです。病気を抱えていたとしても、どうして伝道を最後まで終えられなかったのか理解できない、それが彼らの言い分でした。伝道することが本当に大好きだったので、そう言われるのは実につらいことでしたが、この試練には天の御父の目的があり、きっと成長につながると信じていました。

わたしは学校に戻り、デートを始めました。状況は良くなっていましたが、自分の伝道を思い出すといつも少しつらい気持ちになりました。すると

友人が、救い主の贖^{あがな}いは全ての痛みと苦しみを癒やすことができると気づかせてくれました。主の助けがあれば、幸せな気持ちで自分の伝道を思い出せるというのです。

わたしはひざまずいて天の御父に祈りました。苦しんでいること、そして癒やしと慰めを受けるためどう努力してきたかを話し、感じているつらさを取り去ってくださいとお願いしました。祈り終わると主はわたしの目を開き、主の目から見たわたしの伝道を理解することができるようにしてくださいました。わたしの伝道も早期の帰還も、主の望まれるような人物になるための主の計画の一部だったのです。帰還して以来、主が与えてくださった数々の奇跡にも気づきました。大変な道のりでしたが、神は何がわたしにとって最善なのかを御存じだと知っているのです。今は早期の帰還を平安な気持ちで振り返ることができます。

帰還宣教師へ——

早期の帰還に対処する 6つのヒント

帰還はつらいことですが、努力によって、それを栄誉ある、前進に役立つ一歩とすることができます。以下はわたしの助けになった事柄です。

キリストのもとに来る。どんな理由で帰還することになったとしても、キリストはそれを解決する助けがおできになります。主の贖い^{あがな}は悔い改めのためだけでなく、慰め、理解、癒やしのためでもあります。

前進のための一歩にできるのだということを忘れない。御霊^{みたま}を受けるにふさわしく生活して最善を尽くしている限り、つまり

きの石のように思えることが成長の機会となる可能性があります。

聖文を読む習慣を継続する。神は聖霊を通して語られますが、何よりも、真摯に聖文を研究し応用するとき、聖霊の影響を受けやすいのです。神があなたを慰めるためだけに章の全てを書かれたことが分かるかもしれません。

忙しくする。厳しく決められた忙しい宣教師の生活から、何もすることがない生活になると、自由時間がたくさんあるため、自分を哀れだと思ったり、無力で悲しくなったりすることが増えるかもしれません。それはサタンが望むことです。神はあなたが善いことに「熱心に携わる」(教

義と聖約 58 : 27 参照) ことを望んでおられます。そうすることで幸せでいられるからです。

助けを求めて祈る。天の御父は慰めと導きという祝福を備えて待っておいでです。あなたがしなければならないのはただ一つ、求めることです。どんな試練も、乗り越えるには主の助けが必要です。

人の言葉を善意に解釈する。あなたのことを本当に気に掛けているのに、どう対処してよいか分からずにいる人々の言動に傷つく理由を見つけることは簡単です。あなたの成功を願う人々に焦点を当て、あなたを裁く人^{ゆる}を赦してください。

家族や友人へ——

早期に帰還する宣教師を助ける 5つのヒント

わたしが帰還したとき、人がわたしとどう接したらよいかよく分からないでいることに気がきました。以下はわたしが、そうした人々が知ってくれたらと思ったことです。

裁かない。早期に帰還する宣教師は、何らかの癒やしや修正の過程にあります。それは肉体、心、霊、または家族の場合もあるでしょう。努力をしつつ悩んでいる人に、優しく接してください。

質問をやめる。気に掛けてくれる人がいるのは本当に良いことですが、質問攻めは

よくありません。親切のつもりでも、早期に帰還した宣教師について詮索しないでください。他の方法で支援して愛を示してください。

忙しくしてられるように助ける。伝道地の秩序ある生活と活動から、自宅での自由な時間と新たな選択のある環境に適應するのは難しいことです。生産的で楽しく、健全なことを見つけられるよう助けてください。

自分で啓示を受けられるようにする。伝道地へ戻るかどうかの選択は、宣教師本人と天の御父で決めることです。天からの助言を求めるよう励まし、自分で答えが受けられると信頼してください。

友達でいる。多くの場合、これが早期に帰還する宣教師の生活で最も難しい試練の一つです。多くの帰還宣教師が信仰を大いに試されます。幸せになれないとか、成長できないというわけではありません。ただ、無条件に愛してくれる友人が必要なのです。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。



フランスで 強さを保つ

教会機関誌

ミンディー・アン・セル

ヘリコプターの操縦士になる訓練を受ける機会を得ることのできる人は多くありません。しかし24歳のピエール・オーがフランス軍への志願を決心して得たのは、まさにその機会でした。現在、4年の訓練期間の2年目を迎えたピエールは、自分の置かれた状況がどうであっても、信者の模範として最善を尽くして生活しています。

彼が配属されたのは、フランス南部にあるボルドーから1時間半の場所で、友人や家族、そして故郷のレンヌから遠く離れています。一番近い教会の集会所に行くには1時間掛かり、それは週日に会員と交わることがあまりないことを意味します。ピエールは言います。「軍隊の中で教会員であるというのは容易なことではありません。誘惑が多く、軍隊と教会はまったく正反対の世界だからです。多くの場合、軍隊は人を行動ではなく、その人がどのような人かで判断します。」ピエールは、自分がアルコール、タバコ、ポルノグラフィ、また、パーティー

といった、軍隊では当たり前のことをしないのは、自分が教会員だからだということを周りの人たちに知ってほしいと思っています。周りの人たちから尊敬を得ようと腐心する彼にとり、祈りと聖文の研究は証を強く保つための助けです。ピエールはこう説明します。「寝る前には必ず聖文を読むようにしていますし、できるときはいつも祈るようにしています。」

「学生時代を通じて、聖文を読むことと祈りは、福音の他のことはあまり理解できなくても、神の存在を知り、そばにいてくださることを知る大きな助けになりました。神がそばにいて助けてくださるので、正しい道にとどまっていられるということははっきり分かっていました。」

聖文研究という土台は、学生時代や現在の軍隊の訓練を通じてピエールを支えました。入隊前にピエールはカナダのモントリオール・ケベック伝道部で伝道し、伝道中に福音に対する証と理解は確かなものとなりました。

フランス軍に所属する
教会員のピエールは、
自らの信仰の
模範となるために、
祈りと聖文研究に
頼っています。

「聖文は、天の御父が答えを伝えられるための最も確かな方法の一つです」と彼は言います。

毎日の祈りと聖文の研究を通して、ピエールは靈感を受けることができるだけでなく、所属する部隊の人たちに対する模範になることができます。祖国への誇り以外に、ピエールとクラスメートに共通点はあまりありません。しかし、聖文の教えに従えば、信仰があるにもかかわらずではなく、信仰があるからこそクラスメートから尊敬される人になると知っています。■

ピエールについて

好きな食べ物は何ですか。

ブルトンガレット（ワッフルに似た西フランスのお菓子）が好きです。他にも、パン、チーズ、ソーセージ、パテも好きです。

時間があるときに何をしますか。

友達と出かけます。時には、食べておしゃべりするために出かけます。妻と買い物をしたり、映画に行くのも好きです。読書やスポーツも好きです。特にランニングと水泳が好きです。

フランスのデートはどのようなものですか。

相手の女性が、アメリカ合衆国でのデートについて、つまり、互いに知り合い、友達になるためにデートをするということを知っていないと、単に友人として一緒に出かけると面倒なことになります。教会の指導者は、シングルアダルトのために数多くの活動の場を設けようとしています。出会いの場として大きなグループデートができるようにするためです。そこでわたしも妻と出会いました。

フランスの教会

末日聖徒の人数 37,812

現在のワードおよび支部の数 107

家族歴史センターの数 67

伝道部 2

神殿の数 1（現在建築中）

統計で見るフランス

人口 6,600 万人（2015 年推計）

城の数 40,000（中世の城、領主の館、
宮殿）

年間の観光客数 8,000 万人。この数は
世界一である。





十二使徒定員会
ロナルド・A・
ラズバンド長老

神殿の祝福を求めるには

神殿は主の宮です。そこでは、死者の身代わりのバプテスマや家族を永遠に結びつける結婚といった神聖な儀式を通じて、救い主の教えが再確認されます。

皆さんにお勧めします。神殿での礼拝は、皆さん一人一人が**做うことのできる、大切な模範を示した**ものです。それは、個人であろうが家族であろうが、同じです。自分が何に焦点を合わせ、何に心を注ごうかと考えている限り、また**自分の生活に確固たる基を築こうとする**場合でも同じことが言えます。皆さんの多くが既にそれを実践していることを知っています。そのような皆さんに、わたしたちは心から感謝しています。

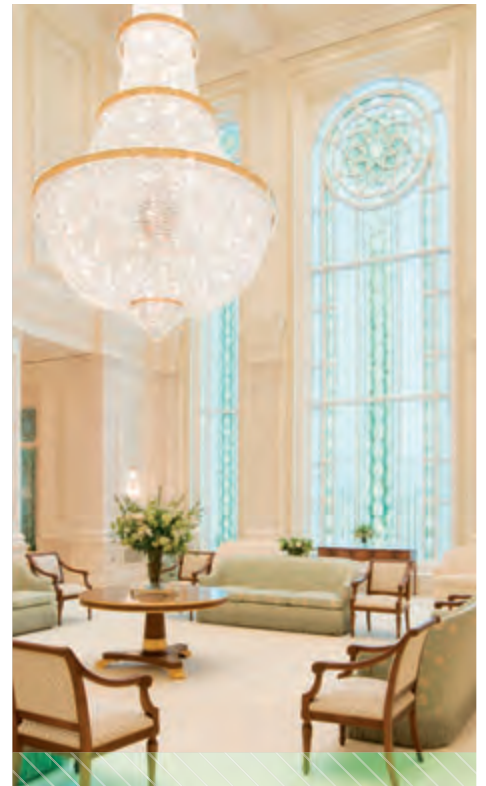
大管長会は以前、全教会員に宛てて、ある勧めの手紙を送りました。それはもちろん、わたしにも皆さんにも当てはまります。「時間と状況が許す場合には、**余暇の活動の幾分かを神殿での奉仕に向けて**くださるようお願いします。」

わたしたちはまた、信仰をもって神殿に参入し、預言者、聖見者、啓示者によって**約束された祝福について考える**ように望まれています。

トーマス・S・モンソン大管長は次のような約束をしています。「**神殿に参入し、自分の重荷を主の前に降ろしてください。**そうすれば、皆さんは**新しい精神に満たされ、将来への自信も湧いてくる**ことでしょう。主を信頼してください。そうすれば、主は皆さんを支え、育て、神の日の栄えの王国へと続く道に従って進めるよう、**一步一步導いてくださる**ことでしょう。」¹

神殿の礼拝からもたらされるもう一つの慰めの祝福とは、**現在襲いかかろうとしている嵐から守られ、平安があると確信できる**ことです。天の御父がその民の集合する場所として定められた最も安全な場所が、主の神殿の中です。

どの神殿にも、その前壁の外側には次の言葉が記されています。「**主の宮居 聖きを主に捧ぐ**」わたしは、主の神殿が皆、この地上における主の**聖域である**と証します。ここにいる全ての皆さんにお勧めします。事情が許す限り、**もっと頻繁に神殿に参入してください。**そして、**祝福と守りを求めてください。**それは神の預言者たちから皆さんに約束されていることなのです。■



自分にどのように当てはめましたか

わたしが心の中で神殿こそ主の宮だという確固とした気持ちを持った理由は、神殿に参入するたびに感じる平安にあります。家族が軍人なので、世界中の神殿を幾つか訪ねたことがありますが、感じるのは同じ平安と慰めと御霊です。神殿で感じる平安のおかげで、わたしはこの世の生涯における自分の役割と自分自身を向上させる方法について、もっと深く理解できるようになりました。その後もその理解は深まり、また日常生活のストレスに対処する能力も身につけてきました。

ジェネシー・B (アメリカ合衆国、ユタ州)

2009年2月10日にブリガム・ヤング大学で行われたディボーションでの説教から。全文(英文)は speeches.byu.edu からご覧いただけます。

注
1. トーマス・S・モンソン、デル・バン・オーデンの "San Diego Temple: 45th House of the Lord Dedicated in 'Season for Temple Building,'" *Church News*, 1993年5月8日付, 12から引用。

そこが知りたい

なぜ神はわたしたちに、
結婚に適切な年齢より
ずっと早い時期に
恋愛感情を
お与えになるのでしょうか。

も ちろん恋愛感情そのものが悪いわけではありません。恋愛感情は、いずれ結婚して神が定めた目的を果たすうえで必要なものです。でも、恋愛感情を行動に移すのに適切な時期よりも何年も前にそのような感情を抱くのはなぜでしょうか。

それは、この世が従順さの試される時であり、純潔の律法こそ、わたしたちが従うべき最も大切な律法の一つだからです。思春期を過ぎると試しはさらに厳しくなります。ホルモン（と放任主義の文化）は「行け、行け、行け」とけしかけ、キリストの光と聖霊（そして聖文、預言者、両親、指導者）は「待て、待て、待て」と言います。後者のメッセージに聞き従うとき、わたしたちは自分のふさわしさを証明し、成熟度と道徳面での鍛錬ができていることを示します。道徳面での鍛錬とは、「いつでも正しい行いを、正しいという理由で選ぶことです。難しい場合でも正しい行いを選ぶのです。」(D. トッド・クリストファーソン「道徳面での鍛錬」『リアホナ』2009年11月号、105-106)

人生における他の多くの試しと同様、この試しは、やがて受けるさらに大きな祝福にふさわしいことを証明する機会を与えてくれます。その祝福には、神殿においてこの世から永遠にわたって結び固められることも含まれます。■



今日において、
キリストの時代のように奇跡が
起こらないのはなぜでしょうか。

救 い主の奇跡は「神聖な行為」だっただけでなく、「神の教えの一部」でした (Bible Dictionary, “Miracles” の項)。教会では今日も、癒やしや他の奇跡が起きています。ただ、それは必ずしも劇的なものばかりではありませんし、当事者が神聖な経験として大切にするために、あまり公の場で語ることがないのです。皆さんも自分の生活や、家族や先祖の生活で起きた奇跡を探してみてください。奇跡を願うことがあっても、天の御父が御自身の時と方法によって祈りにこたえてくださることを忘れないようにする必要があります。

奇跡はイエス・キリストの福音の一部です。奇跡は地上に信仰があるというしるしであり (エテル 12:12 参照)、御霊の賜物の一つです (教義と聖約 46:21 参照)。■

友達からの圧力と ピスト

ようやく友達全員とパーティーに来れたのに、
みんなお酒を飲んでいました。





良い友達は大切です

「皆さんのように、最も重要な事柄、すなわち永遠の目的のために計画する人と交わってください。」

トーマス・S・モンソン
「決断は行く末を決める」
(ブリガム・ヤング大学ディボーションル、
2005年11月6日)、speeches.byu.edu

の。わたしは本当にびっくりして、そこから逃げ出したかったの。早く迎えに来てほしくてたまらなかったのよ。来てくれてうれしいわ。」車の時計を見ると、まだ10時前でした。

母は言いました。「世の中のパーティーってそういうものなの。だから前のパーティーに行くことを許さなかったのよ。」

その晩わたしは、夜の祈りの中で両親が早く迎えに来てくれたことを天の御父に感謝しました。

わたしたち教会員は世の中にいますが、世と同じではありません。あんなパーティーに出席し続けていたら、いずれ知恵の言葉や、純潔の律法さえ破ることになっていたかもしれないと知りました。知人の多くはそうになっています。その多くは教会員ではありませんが、教会員でも、確固として立っていなければ墮落への一線を越えてしまう危険があります。

お酒を飲まない^{ひとこと}と決心したことをうれしく思います。後でからかわれるだろうと思っていたのですが、友達はわたしの標準を知っている^{ひとこと}ので、むしろもっと敬意を払ってくれるようになりました。その後、自分の害になると知っていることを断るのを恐れなくなりました。■

筆者はメキシコのサルティヨ在住です。

キアラ・ブランコ

12歳のとき、転校先の学校の女子数人から誕生日パーティーに招かれました。その学校の友達からパーティーに招かれたのは初めてでした。両親に行ってもいいか尋ねると、パーティーが始まる時間が遅いからだめだと言われました。

それから少しして、別のパーティーに誘われたので両親に聞いてみましたが、ただだめだと言われました。わたしは腹を立てました。わたしは楽しんではいけ^{ひとこと}ないの、と思ったのです。

それから親友の一人がパーティーを計画し、わたしを真っ先に誘ってくれました。他のパーティーより始まる時間が早く、内輪だけのパーティーで、場所も家の近くでした。両親に行ってもいいか許可を求めると、今度はいいと言ってもらえたのです。わたしはともうれしくなりました。

やがてその日が来^{ひとこと}ました。両親が車で送ってくれ、午後10時に迎えに来ると言^{ひとこと}って帰って行きました。パーティーの場所に着くと、女友達数人がいました。20分たっても、誕生日を祝ってもら^{ひとこと}うはずの本人の姿はありません。

それから数分後、一人の若い男性がわたしたちのところ^{ひとこと}に来て「ピストのための金は持って来たかい」と尋ねました。そのしぐさから、「ピスト」というのはビールのことだと分かりました。友達は皆、言われたとお^{ひとこと}りお金を払いました。わたしはお金の持ち

合わせがなかった^{ひとこと}ので、その子たちがお金を払っている間に別の女の子たちと一緒に行動することにしました。

ようやく、主役の女の子が1時間も遅れて到着しました。彼女にお祝いの言葉を言って話しているときに大きなトラックが到着しました。5人の男の人が降りて来て、ビールの入った木箱を二つトラックから降ろしました。みんながそれを取り囲み、ビールを配り始めました。友達もビールをもらいに行ったので、わたしは独りで、我先にビールを飲もうとする若者たちを見^{ひとこと}ていました。

友達が戻って来て、わたしにビールを勧めましたが、わたしは「要らない」と断りました。もう一度強く勧められましたが、再度断りました。心臓の鼓動が速くなり、変な気分になりました。まるで自分がサスペンス映画の主人公で、えたいの知れない場所に閉じ込められているような気がしました。そのとき、車のクラクションの音が聞こえました。両親が迎えに来たのです！一言さよならを言^{ひとこと}って外に出るや、車まで走りました。

息を切らせて車に乗り込み、自分のいた環境がひどく重苦しく感じられたことに気づき始めました。母が、大丈夫なのと聞いてきました。「うん。でも驚いたことがあったの」とわたしは答えました。

「何に驚いたんだい」と父が尋ねました。

「友達がみんなお酒を飲んでいた

A stylized illustration of a microscope in shades of teal and dark teal, set against a vibrant orange background with a faint, repeating pattern of molecular structures. A DNA double helix is depicted in the center, with yellow and red strands. The text '科学と真理の探求' is overlaid on the right side of the microscope.

科学と 真理の探求

福音に対して理解していることと科学を通じて学ぶことの間
 対立があるように思われても、心配する必要はありません。

アリシア・K・スタントン

ひどいにきびで皮膚科医に行き、治療はいくらか血を抜くことだと言われるのを想像できますか。それはばかばかしく聞こえるかもしれませんが、数世紀前には信じられない話ではなかったのです。当時、多量の血液を抜くことは、消化不良、精神病、にきびすら含む、ほぼ全ての病気に対する標準的な治療法と考えられていました。誰もそのことに疑問を持つ人はいませんでした。なぜでしょう。結局のところ、瀉血（しゃけつ 訳注——人体の血液を外部に排出させることで症状の改善を求める治療法の一つ）は、多くの文化圏で何千年もの間、用いられていたのです。

医師たちが科学的な観点で医療に取り組み始めるようになって、初めてこのやり方に疑問を持つようになったのです。そこでようやく瀉血療法についての詳しい研究がなされ、医師は幾つかの特定の病状を除き、他の全ての病気に対してこの方法での治療をやめました。¹

この歴史的な例から、あることが広く信じられてきた、あるいは長い間行われていたという理由だけでは、必ずしもそれが本当だという意味にはならないことが分かります。そして、科学が真理を明らかにするための優れた道具となれることも分かります。

末日聖徒にとって、それは重大なことです。真理を知っていることは現実的な決断のためのより優れた基盤を与えるだけでなく（「にきびを治すために血を抜くなんて、ごめんです！」）、福音の理解をも深めてくれます。ブリガム・ヤング大管長（1801 - 1877年）は次のように教えています。「福音に属さない真理は存在しません。……天であれ地であれ……真理を見いだすことができるならば、それはわたしたちの教義に包まれます。」²

「なぜ」対「どのような」

もちろん、わたしたちが知っている真理をさらに深めるうえで科学がどのように役立つかについて話す際に明確にしておかなければならないことがあります。それは、科学で解明できるのはどのような真理であり、また、できないのはどのような真理であるかです。それを見極める一つの方法は、科学はどのような質問に対して答えることができるのか、また答えることができないかを問うことです。

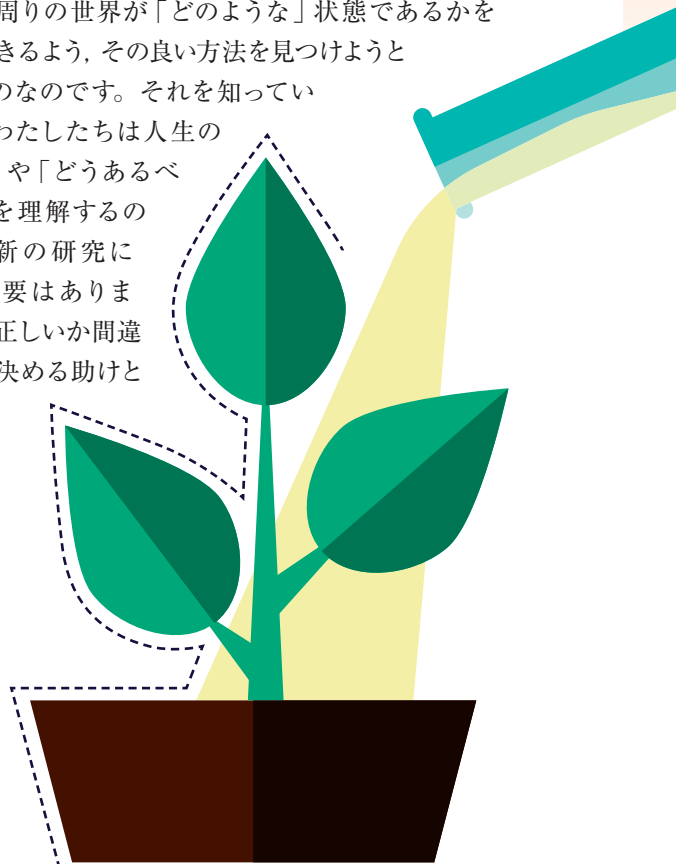
アメリカ合衆国ニューヨーク州のレンセラー工科大学で化

学工学を研究した、エレン・マングラム姉妹は、次のように説明しています。「科学とは事物が『どのような』状態であるかを説明するものです。しかし、『なぜ』を説明するには至りません。」 それに加えて、宗教とは、地球が創造された理由や、わたしたちがここに置かれた理由など、「なぜ」を説明するものであると言っています。

有名な物理学者アルベルト・アインシュタインも、宗教と科学はそれぞれが異なり、互いに補完的な目的を持っていると信じていました。

「科学は事物が何であるかを突き止めることができるだけで、それがどうあるべきかを突き止めることはできない」と彼は記しています。「[科学の]力が及ばないところでは、依然としてさまざまな道徳的な判断が必要です。」³

それは末日聖徒にとってはどのような意味でしょうか。まず、科学的理解というものは常に変化するものであると、わたしたちは知っています。結局のところ、科学とはわたしたちの周りの世界が「どのような」状態であるかを理解できるよう、その良い方法を見つけようとするものなのです。それを知っていれば、わたしたちは人生の「なぜ」や「どうあるべきか」を理解するのに、最新の研究に頼る必要はありません。正しいか間違いかを決める助けと





して、わたしたちはイエス・キリストの不変の福音に頼ることができます。

全ては合致する

十二使徒定員会会長であり有名な心臓外科医であるラッセル・M・ネルソン会長は、宗教と科学がどうかみ合っているのか次のように話しています。

「科学と宗教の間に対立はありません。対立は、科学または宗教、あるいはその両方についての不完全な知識からのみ生じます。……真理が科学の研究室で明らかにされるのか、それとも、主の啓示によって明らかにされるのかにかかわらず、両立できるものです。」⁴

ですから、皆さんが今まで、地球の年齢や恐竜や進化論やその他、理科の授業で学んできたことがどのように福音に合致するのだろうかと思ったとするなら、それはすばらしいことなのです。全ては確かに一つに合致しますが、まだ多くの質問が残っています。なぜなら、わたしたちには学んでいる途中のことがまだ多くあるからです。カナダ・ケベック州の薬学研究者であるブライアン・ダウン兄弟は、全てが明らかにされるときを楽しみにしていると述べています（教義と聖約 101:32 - 34 参照）。

その一方で、彼は次のように語っています。「周りの世界の全ての謎を科学探求によって解き明かそうとしても、その力には限界があります。同様に、神の奥義と、御自分の子供たちのための神の遠大な計画についてのわたしたちの理解も限られています。」

ですから、あなたが福音について理解していることと、科学を通じて学ぶことが一致していないように見えても、心配する必要はありません。実際には、科学が明らかにする事柄で、皆さんが信じていることを間違っていると証明できるものは何もないのです。

ですから、もし科学が好きなら、自分の興味のある分野についてできる限り学んでください。信仰があることが有利

とさえなります。南バージニア大学で生物学の准教授であるリチャード・ガードナー兄弟は、イエス・キリストの福音に対する信仰が大きな助けとなっていることを次のように述べています。

「時折、研究が困難で、何もうまくいっていないように思えたとき（研究とはそのようなことが多いのですが）、福音の祝福に観点を置くことが状況を乗り切る助けとなりました。」

ダウン兄弟も、科学における自分の仕事において信仰が助けとなったと感じています。

「わたしは、全ての事柄に論理と秩序があり、一つの疑問に対して十分に時間をかけ、熱心に探求すれば、いつか、天の御父はわたしの心を開き、解答を与えてくださるという信仰をもって常に研究してきました」と彼は述べています。

科学的発見を喜ぶ

キリストと主の福音への信仰はまた、わたしたちがいつも謙遜でいられるよう助け、科学の分野にせよ、霊的なことにせよ、求める真理に心を開く助けとなります。

「科学では分からないことがたくさんあり、また神について、神が明らかにしておられないことがたくさんあります」とガードナー教授は述べています。「ですから、新しい情報がどんどんもたらされる中で、性急に判断を下さず、今は悩まないようにすることが重要です。」

例えば、一部の人々は、世界を観察してみて、他に説明のしようがないという理由だけで神を信じています。これは「隙間の神」（訳注——科学で説明できない部分、すなわち「隙間」に神が存在するとする見方）への信仰と呼ばれるもので、この人たちは科学的発見に戦々恐々としています。ガードナー教授は次のような一つの例を挙げています。

「ある人々は、化石が示す記録には隙間（つまり、進化論では現在の状態に至った過程を説明できない部分）があるので神を信じたわけです。しかし、こうした隙間が新たな化石の発見によって埋められたとき、その信仰はどうなるでしょうか。むしろ、わたしたちは聖霊を通して神から確かな証拠を得る必要があります、そうすることで、新たな発見を心配する代わりに、どのような科学的発見をも喜ぶことができるのです。」

このような姿勢で臨むとき、科学と宗教の両方が真理の探求の助けとなることができ、また、結局のところ、全ての真理は、神という同じ源からもたらされることを忘れずにいることができます。

「神は御自分が明らかにしたいと望んでおられることなら、あらゆる科学的事実を含む、全ての事柄を明らかにすることがおできになります」とガードナー教授は述べています。「そして、神は間違いなく、科学者、発明家、技術者に靈感を与え

てられました。しかし、全ての答えを与えられるわけではありません。神は彼らに、そしてわたしたちに、自ら考えることを求めておられ、そうすることで、わたしたちが自分で科学を解明できるようにしてくださっています。しかし、どのように教会を組織し、また特にどのようにわたしたちがキリストのもとに来て救われるかについては、神が教会に対してお与えになる啓示によって示してくださいます。

神からわたしたちへの個人的な啓示はあらゆる事柄に対してもたらされますが、特に、神が生きて、わたしたちを愛しておられること、キリストが救いの計画を進めておられること、今日生ける預言者がいること、わたしたちは神の計画に従うことができること、そして、そうするだけの価値が十分であることを理解させてくれます。」■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

注

1. 例として、K・コデル・カーターとバーバラ・R・カーター、*Childbed Fever: A Scientific Biography of Ignaz Semmelweis* (1994年) 参照
2. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』16-17
3. アルベルト・アインシュタイン、"Science and Religion", ケン・ウィルバー、*Quantum Questions: Mystical Writings of the World's Greatest Physicists* (1984年) で引用
4. ラッセル・M・ネルソン、マリアンヌ・ホールマン・プレスコット、"Church Leaders Gather at BYU's Life Sciences Building for Dedication," *Church News*, 2015年4月17日付, LDS.org で引用



分子および細胞生物学者である
リチャード・ガードナー博士による

質疑応答

科学に興味を持ったきっかけは何ですか。

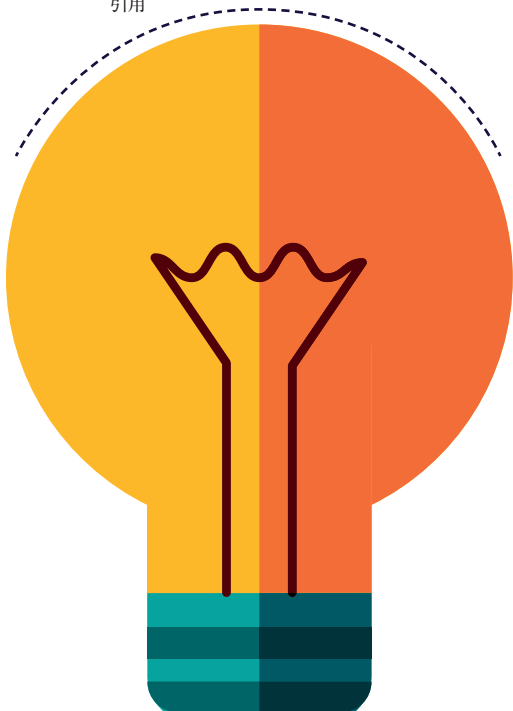
父が植物学者だったので科学に興味を持ちました。子供の頃、よく父の顕微鏡やその他の研究室の機器で遊んだり、植物や菌類についての父の話を聞いたりしました。9歳くらいのとき、遺伝学者であった祖父が研究用にショウジョウバエを何匹かくれました。高校時代には、科学の授業は取れるだけ全部取りました。特に昆虫採集の宿題は大好きでした。かなり幼いときにはもう、科学の博士号を取ろうと決めていました。物の仕組みを知りたいと思っていましたし、学ぶことが好きだったからです。

科学の追求は信仰をどのように強めましたか。

一つの細胞の中がいかに複雑か知れば知るほど、驚きは大きくなります。わたしはごく一般的な細胞内の化学反応のほとんどを小さな活字で図表化した大きなポスターを2枚持っています。化学反応というのは、全て厳密に制御されているのです。一度、わたしが教えた神権会のクラスでそのポスターを見せたことがあります。わたしはクラスの神権者たちに、テンプルスクウェアやその他のLDS訪問者センターにあるキリスト像を思い出してもらいました。その像の後ろに宇宙の絵がありますが、それは、「この御方こそ、これら全ての創造主である！」ということの意味をしています。しかし、わたしは、この像の後ろにこれらのポスターを置いてみましょと提案しました。そのポスターは宇宙の絵のようにきれいではありませんが、主はこの細胞化学も創造され、また、その全てを詳細に理解しておられるのです！

信仰は科学の追求においてどのような助けとなっていますか。

今まで研究をしてきて、現在はおもに科学を教えています。信仰はわたしにとって重要です。なぜなら、信仰がなければ完全な理解を得ることができないからです。細胞がどのように機能しているか学んでも、細胞やわたしたち自身がこの地上に存在する理由が分からなければ、納得できない気持ちが残るでしょう。





七十人
ヒューゴ・E・
マルチネス長老

備えて 行こう

自分自身を備えて主の業を行うことにより生活が変わります。

わたしは6年間セミナーの教師でした。わたしたちは毎朝6時にプエルト・リコの自宅に集まりました。月曜日から金曜日まで毎日レッスンを準備するのは

学びたいという望みを
持って来てください。

大変でしたが、楽しんでやっていました。また、教会の青少年に対する愛がさらに深まりました。

わたしは、生徒がセミナーから何を得るかは、彼らがどのようにセミナーに備えるかに大きく左右されることに気づきました。ですから、もしセミナーのレッスンから多くを得たいと思うならば、前もってレッスンを勉強し、深く考えることをお勧めします。知識を得たいという強い望みを持ってクラスに来てください。常に学びたいと望みながら、子供のような気持ちで来てください。積極的に参加して互いに教え合えるよう、備えてください。そして、質問を用意してきてください。他の青少年や読んだ聖句、あるいは教師の言葉があなたの質問の答えとなるかもしれません。

あらゆるクラスや教会の集会において最良の指示を受けるのは、前もって準備することで、思いとして与えられる霊的な促しを受けるときです。それらを書き留め、実行しましょう。それらの概念に関する聖文や総大会の話や教会機関誌の記事を探しましょう。頭と心の中でそれらについて考え、奉仕する備えをしましょう。なぜなら、そのような真理を知ると、主は誰かを助けるためにあなたをお使いになるからです。

後に伝道部会長として妻と奉仕したときに、セミナーがすばらしい伝道の備えであることに気づきました。これまでに、忠実なセミナーの生徒が福音から豊かな祝福を受ける姿を見てきました。彼らは、セミナーのクラスで学んだことを、生活の中で

参加できるよう
備えてください。

直面する大きな課題に応用して困難を克服しています。あまり活発でなかった期間を経て教会に戻って来た人もいます。

あなたは主にとって大切な存在で

す。間違いありません。青少年の務めは、伝道に備え、それから伝道の業を行うことです。伝道活動を継続し、備え続けることにより、主の宣教師としてさらに成長を遂げることができることを理解する必要があります。伝道するために宣教師の名札は必要ありません。なぜなら、あなたは聖約のためにイエス・キリストの名が心に刻まれているからです。

あなたはこの業を
進めることができます。

家族歴史と神殿活動にも同じことが言えます。例えばわたしが奉仕しているカリブ地域では、家族歴史相談員に青少年を使っているステークにおいて、より高い割合の会員が神殿の儀式のために名前を見つけ、神殿の儀式を行っています。あるステークでは、20人の青少年が伝道に出る年齢に達する1年前に家族歴史相談員として召されました。彼らは家族歴史の方法を教えるために会員の家を訪問する道すがら、出会う人に話しかけ、家族歴史や神殿について話します。これはまさに伝道です。

彼らが伝道に出るときに、既に強い御霊みたまを感じていることを願います。できれば家庭で、そうでなければ、伝道や家族歴史、神殿活動を行うときに、既に強い御霊を感じたことがあるよう願います。そして、宣教師訓練センター

あなたの生活は
祝福され、変わるでしょう。

に入所したときに「人生でこれほど御霊を強く感じたことはない」と言う人が一人もないことを願います。それより以前に、主の影響を強く感じているはずです。

主はあなたを愛しておられます。主は、家族歴史活動、神殿活動、伝道活動をあなたの手で行うよう計画されています。あなたには技能と知識があります。よく準備すれば、この業を行うことができます。あなたの生活は祝福され、変わるでしょう。■



救い主を覚える

教会機関誌
エリック・B・マードック

わたしたちは恵まれて、毎週教会に出席して、聖餐せいさんを取る機会にあずかります。実際、毎週日曜日に教会に行くおもな理由の一つがそこにあります。しかし、聖餐がなぜそれほど大切なのか、その理由を知っていますか。実は、わたしたちが行うと約束することが一つあります。そのために、教会の活動の中でも、聖餐が最も大切なものの一つとなり、神聖な儀式となっています。それが、イエス・キリストを覚える、ということです。それについて考えてみましょう。救い主を覚えるということは、聖餐の祈りの中でもその中心にあります。その中で、わたしたちは「いつ

も御子を覚え」と約束します(教義と聖約20:77, 79)。日曜日だけではなく、いつもです。いつも救い主を覚えていると、わたしたちの生活も、救い主の標準と教えを反映したものととなります。また、生活の中で、力強い、活力にあふれた影響力を見いだすこともできます。

覚えていることで、一人の若者がどのように助けられたか

例えば、神の天使が息子アルマに悔い改めるように言ったとき、彼は数日にわたって、話すことも動くこともできませんでした。このとき、息子アルマは過去の自分の罪を思い出して苦しみます。しかし、そのとき、「かつて父がイエス・キリストという御方の来臨について……預言するのを聞いたことを思い出した。イエス・キリストは神の御子であり、世の罪を贖あがなうために来られるというのである。」そしてこう言っています。「心にこの思いがはっきりと浮かんできたとき、わたしは心の中で、『おお、神の御子イエスよ、苦汁の中におり、永遠の死の鎖に縛られているわたしを憐れんでください』と叫んだ。さて見よ、このことを思ったとき、わたしはもはや苦痛を忘れることができた。』(アルマ 36:17-19)

アルマはキリストのことを思うだけで、憐れみを求めて祈ることができました。それによって、罪悪感が取り去られ、苦痛が和らげられ、悔い改めることができるようになりました。アルマと同じように、わたしたちも自分の生活をキリストに向け、福音に従って生きることからもたらされる喜びを経験することができるのです。その選びは、イエス・キリストとその贖あがな罪ざいの力を覚えることから始まっています。



わたしたちが^{せいさん}聖餐を取ることで
イエス・キリストを覚えるとき、
大いなる祝福がもたらされます。

イラスト／ケビン・キール



救い主をいつも覚えるという約束を守ることで
もたらされる祝福について、もう5つ紹介しましょう。

1. 御霊がともにいてくださる

日曜日に聖餐を取る時、皆さんは一つの約束を思い起こします。それは、キリストを覚え、戒めを守り、御名^{みな}を受けるならば、いつも主の御霊がともにいてくださる、という約束です。問題があふれる世にあって、道をそれるのは簡単です。しかし、聖霊がともにいてくださるのなら、「聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るで〔しょう〕。」(モロナイ 10:5) 主の御霊は、皆さんの導き手となり、祝福として、進むべき方向を示し、指示や守りを与えてくださいます。

2. 誘惑に対抗するための力を与えてくださる

わたしたちが誘惑に対抗するための、最も確実な最大の防御は、イエス・キリストを信じる信仰を持つことです(アルマ 37:33 参照)。思いをキリストに集中させると、サタンのうそを見破り、わたしたちを欺こうとするサタンのたくらみに気づくことができます。イエスは誘惑に直面されたものの、決してそれに屈することはなかったため、わたしたちも、誘惑に直面したときには、イエスに頼ることができます。ニーファイはこう教えました。だれでも「〔神の言葉〕にしっかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破……ることはない……。」(1 ニーファイ 15:24) わたしたちが救い主やその教えを覚えていれば、救い主はわたしたちを高く上げることも、誘惑に対抗できるようわたしたちを強めることもおできになるのです。

3. 主の模範によって導かれる

イエスは、永遠の命を求めてどこへ行ったらよいのか単に教えられただけではありません。御自分がその道を示されました。イエスは言われました。「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ 14:6) キリストはわたしたちの完全な模範です。キリストは地上でその務めを果たしておられるときに、愛や柔和、謙遜さや思いやりについて教え、模範を示されました。教え、仕え、人を愛することに時間を費

聖餐についてもっと知るために

救い主と聖餐についてもっとよく知るために、以下の文書を読んでください。

- ジェフリー・R・ホランド「わたしを記念するため、このように行いなさい」『聖徒の道』1996年1月号, 72
- チェリル・A・エスプリン「聖餐——霊の更新のとき」『リアホナ』2014年11月号, 12



やされたのです。

イエスは何をなさるときでも、御父の御心^{みこころ}に従っておられました（ヨハネ 5：30 参照）。救い主は、あらゆる面でわたしたちがどう生きるべきか模範を示され、そしてその模範に従うように招いておられます。

自分がどこへ行こうか、何をしようか、分からなくなったら、救い主のことを思い出してください。救い主は言われました。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」（ヨハネ 8：12）

4. 主の助けを受けたわたしたちは人に仕えることができる

イエスはいつも御自身よりも、人が必要としていることに重きを置かれました。主は「よい働きをし〔て〕……巡回されました。」（使徒 10：38）病気の人々を癒やし、周囲にいる人々をお助けになりました。わたしたちがイエスを覚えるとき、イエスの生涯の本質とも言うべき無私の奉仕の行いも覚えることになります。また、人に仕えることによって主に仕えるようにと言われた主の言葉を覚えることでもあります。「あなたが同胞^{はらから}のために務めるのは、とりもおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。」（モーサヤ 2：17）

主はあなたの目を開けて、あなたが助けられる周囲の人々に気づかせてくださいます。また、そうした人々に最もよく仕えるためにはどうしたらよいか導いてくださることでしょう。小さく単純で親切な奉仕をするときに、皆さんの生活はもっと幸福になり、充実感に満たされるでしょう。人に仕えることにより、自分の生活に平安と喜びをもたらすことができるのです。

5. 悔い改めることができる

わたしたちは皆、一生懸命努力していても戒めを守れないことがあります。しかし、イエス・キリストの生涯と使命のおかげで、戻るための道はあります。

イエス・キリストを覚えることにより、わたしたちはキリストの贖罪を通じてもたらされる悔い改め^{たまもの}の賜物を思い出します。イエスは全ての人に、悔い改めるよう勧めておられます。また、わたしたちは罪を捨てて、主に心を向けるとき、喜びを経験します。わたしたちが自分を変え、戒めを守りたいという心からの望みを抱くとき、主は次のように約束されています。「自分の罪を悔い改めた者は赦^{ゆる}され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」（教義と聖約 58：42）

聖餐を頂くとき、わたしたちは救い主をいつも覚えるという決意をします。自分の思いの中にいつもキリストがおられるようにすれば、生活の中でキリストはその中心となってくださり、持てる力を存分に発揮できるよう、導き、教えてくださることでしょう。いつも救い主を覚えることで、生活にいつも祝福がもたらされるのです。■



わたしの安息日を救う

マッケンジー・ブラウン

「遅れてしまったわ。」急いでよそ行き^{（よそぎ）}の服を着て、髪留めをつかんで、教会まで車を運転し、駐車して、慌てて中に入りました。「ふうー。」わたしが壇上に空いている席を見つけたのは、ビショップがちょうど立ち上がって聖餐会^{（せいさんかい）}を始めようとする時のことでした。

その日曜日、わたしは話の割り当てを受けていました。そこで、自分のノートを素早く見直し、何か忘れていないか確認しました。息つく間もなく、聖餐会が終わったように感じました。次は日曜学校が待っています。今日も聖餐会が無事に終わりました。

でも本当に無事に終わったのでしょうか。

次の1週間、わたしは考え始めまし

た。また次の日曜日がやって来ました。わたしは聖餐会の席に座って、自分にとって聖餐はどんな意味を持つのか考えていました。そのとき、ある思いにハッとしました。「わたしは毎週、イエス・キリストをいつも覚えるという決意を新たにしている。でも、自分はどの程度真剣にそうしているだろうか。」

わたしは自分を変えたいと思い、1週間の計画を立てることにしました。

- その週の間、時間をかけて自分の行いを振り返り、罪の赦し^{（ゆる）}を求める。教会に早く着くようにし、前奏曲^{（ぜんそうきょく）}に耳を傾けて御霊^{（みたま）}を感じるようにする。
- 聖餐式の間、イエス・キリストとその贖罪^{（しよくざい）}について覚えるようにする。何か正しいことをしたか、何か間違ったことをしなかったか、祈りを

こめて振り返るようにする。「主よ、わたしにまだ足りないところを教えてください」と自問するようにする（マタイ 19：20 参照）。

- 聖餐の後、毎日少しでも成長できるよう、またキリストを覚えられるよう、助けを求めて祈る。

この計画に従っていると、本当の意味で聖餐会が好きになっていきました。天の御父に祈ることも、自分の生活について天父と話すことも好きになりました。前の1週間の自分の行いがどうであれ、いつもイエス・キリストの贖罪について感謝し、また自分を変え、もっと良い人になるための機会に感謝するようになりました。今では、聖餐会が単に日曜日のものではなく、毎日のものであると思うようになりました。著者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

半分うわの空？

「^{せいさん}聖餐を準備し、祝福し、パスをし、^{あがな}聖餐を受けるときに、
救い主と、皆さんのためにささげられた主の贖いの犠牲について深く考えていますか。」

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老
「ヤングアダルト——最も偉大な世代の人々」
『リアホナ』2015年5月号, 68



わたしはこのようにして知りました

世の光 となることを学ぶ

ビクトル・デ・ヘスス・クルス・バルガス

わたしはドミニカ共和国で生まれて教会の会員として育ちました。周りには、わたしが正しい道に従って生活するのを助けようとしてくれた素晴らしい指導者がたくさんいました。わたしの夢は、伝道し、人々を助けることでした。

父は、家族のためにより良い生活を求めてアメリカ合衆国に引っ越していたため、母は独りでわたしの姉妹たちとわたしを育てました。時折、寂しく感じることもありましたが、困ったときには教会の指導者に相談できたので、決して独りではありませんでした。

わたしたちがアメリカ合衆国に引っ越したとき、わたしに大きな試練が始まりました。わたしたちは小さな支部に出席しており、わたしの力になろうとしてくれた素晴らしい指導者がいましたが、学校の友人たちは、わたしを福音の道からそらせようとしたのです。残念ながら、わたしは母に対してきつい言葉で話すようになり、母の忠告にはほとんど耳を傾けませんでした。

毎週日曜日には教会に行っていました。本当は行きたいと思っていませんでしたし、伝道に行きたいと思っているかどうかも分かりませんでした。

ある朝、モルモン書を開くと、ちょうどわたしの好きな聖句のページが開きました。第三ニーファイ第12章14-16節です。

「まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたをこの民の光とする。丘の上にある町は隠れることができない。

見よ、人はろうそくに火をつけて灯の下に置くだらうか。そのようなことはせず、^{しよくだい}燭台に立

て、家の中のすべてのものを照らす。

だから、あなたがたの光をこの民の前に輝かせて、この民があなたがたの善い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

この聖句を読むことで大きな喜びが与えられました。セミナーで学んだことや、御父の計画がどれほど素晴らしいものであるかを感じ出させてくれたからです。それでわたしは、世の光となるよう努力すると決心しました。

二人のいとこを教会に来るよう誘いました。それまで、そのうちの一人はあまり活発ではありませんでしたが、活発になりました。もう一人は教会員ではありませんでしたが、わたしは彼にバプテスマを施すことができました。

1年後、わたしはアメリカ合衆国カリフォルニア州で伝道するという召しを受けました。伝道中、これがイエス・キリストの真の福音であることを疑いもなく理解しました。人々を助けることで、わたしの証はますます育ち、聖典を読むときは必ず、世の光となるという第三ニーファイの聖句を暗唱しました。■

著者はドミニカ共和国在住です。



だれであつても

リンダ・デイブース

ほんとうはなしをかきかか
本当にあったお話をもとに書かれました。

「こまったわ」とアンディは思いました。「わたしは家族と結び固められていないけれど、どうなってしまうのかしら。」



「神の子です わたしやあなた」

(『子供の歌集』2)

「一れでいいわ。」アンディは急いで鏡をのぞきこみながら、思いました。お気に入りの赤いワンピースを着ていました。日曜日には、一番すてきな自分でいたかったのです。朝食を食べようと、階段をかけ下りました。

トーストの最後の一口を食べ終わろうとしたとき、リーダー家族が車寄せからクラクションを鳴らしました。「行ってきます、お母さん！ 行ってきます、お父さん！」アンディは二人にキスすると、ドアから走り出しました。

お母さんもお父さんも教会員ではありませんでしたが、アンディが毎週教会に行くようにはげましてくれました。アンディがバプテスマとかくにんの儀式を受けてからずっと、ほとんど毎週リーダー家族が教会まで乗せて行ってくれました。いつも自分がかんげいされ、愛されていると感じさせてくれる、

リーダー家族が大好きでした。

聖餐会の後は、初等協会の時間でした。アンディはロング兄弟姉妹が教える勇者のクラスに出るのが大好きでした。二人はとてもやさしくて、レッスンはいつも最高でした。

「今日は神殿について話すわね」とロング姉妹が言いました。「神殿についてどんなことを知っているかしら。」

アンディは答えの一つ知っていました。「神殿のバプテスマができます。」毎年、ワードの若い女性が神殿まで一緒に行ってバプテスマを受けるので、それがとても楽しみでした。もうすぐアンディも一緒に行けるのです。

「いいわね、アンディ。他に知っていることはあるかしら。」

「神殿で結婚できます」とアンディの友達、アリソンが言いました。

「とてもいいわ」とロング姉妹。「他にはどうかしら。」

「神殿で結び固めを受けると、家族

は永遠に一緒にいられます」とアリソンが付け加えました。

「でも、わたしの家族はだめだわ」とアンディは思いました。「お父さんとお母さんは神殿で結び固められていないもの。」急に顔が熱くなって、目になみだがあふれてきました。

「大丈夫、アンディ？」ロング姉妹が聞きました。

「ええ。」アンディはなみだをこらえながら言いました。でも、その後ずっとレッスンの間、心臓がどきどきするのを感じました。

クラスが終わると、ロング姉妹がアンディの横にすわって、だきしめてくれ



ました。それから「どうしたの」と、聞いてくれました。

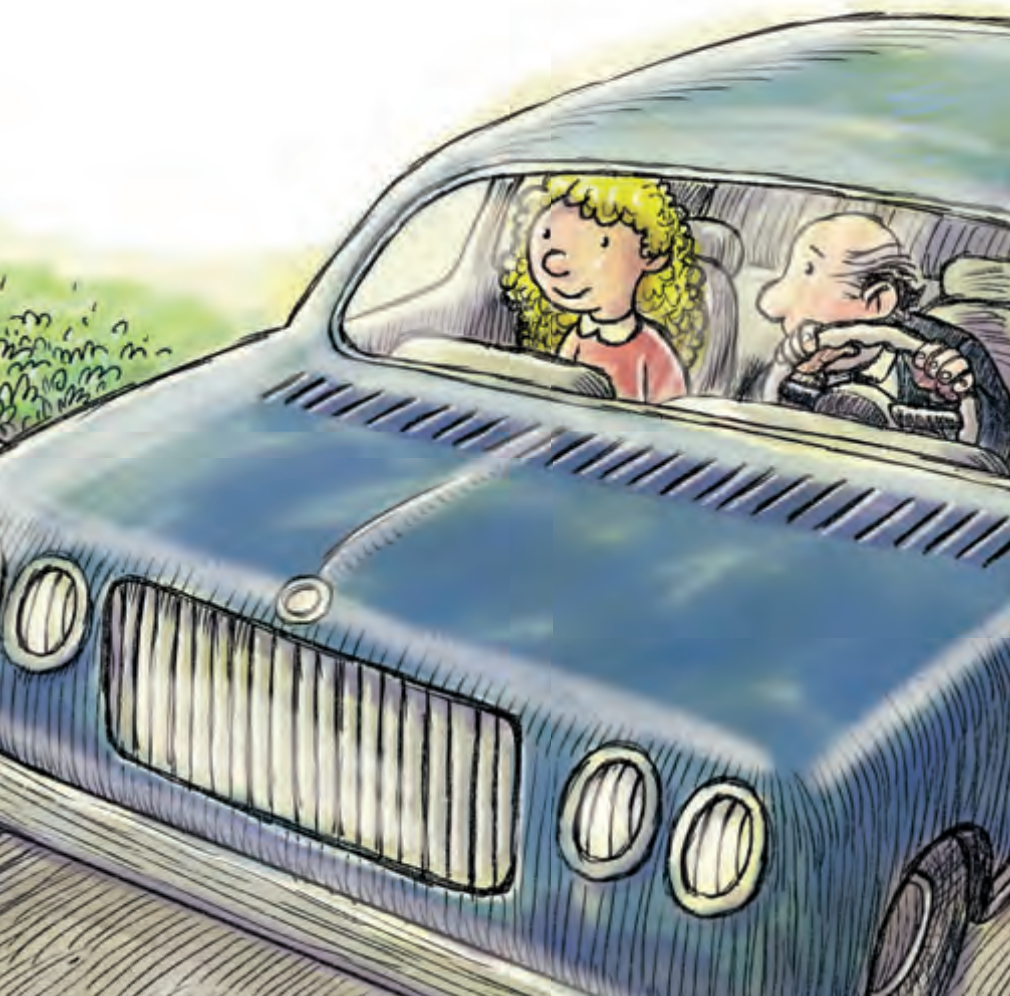
「わたしは、お父さんやお母さんと永遠に一緒にはいられないわ」とアンディは答えました。「二人は神殿で結婚していないもの。わたしは、死んだらだれと一緒にになるの？ お父さんとお母さんが教会員でなくても、天のお父様はわたしのことを愛して下さるの？」

ロング姉妹はアンディの目をまっすぐに見ました。「だれであろうと、家族が神殿に行っていないいなくても、天のお父様の家族であることに変わりはないのよ。あなたは天のお父様

の近くにいる、他の人のものはんになれるのよ。お父様は、どんなことがあっても、いつもあなたを愛して、みちびいて、守って下さるわ。あなたとあなたの家族を祝福したいと思っておられるわ。あなたは、神の子なのよ、アンディ。」

そのとき、アンディの心臓が一瞬止まったようになり、むねのどきどきが止まりました。その代わりに、温かい思いが心を満たしてくれました。先生が言ってくれたことは本当だと知っていました。■

このお話を書いた人はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。



あなたには何が できるでしょうか？

お父さんやお母さん、家族のだれかが教会と関わりたくないとき、あなたには何ができるでしょうか。

- かれらには自由に選ぶことができること、そして、天のお父様はかれらを愛しておられることをわすれないでください。
- あなたがかれらを愛していることを伝えてください。
- 福音に従った生活をするので、良いものはんになってください。
- かれらのすばらしいところを全て覚えていてください。
- 天のお父様が、かれらがお父様の愛を感じられるように助けてくださり、教会にみちびいてくださるようにいってください。



クラレンス 対 チャンピオン

ローリー・フラー

教会機関誌
本当にあったお話をもとに書かれました。

港が見えてきたとき、クラレンスは車のまどの外を見詰めました。色とりどりの家や店の前の海に、ボートがうかんでいます。デンマークのコペンハーゲンは城や大きな家や公園がたくさんある美しい街でした。アメリカ合衆国ユタ州のクラレンスの故郷とは全然ちがっていました。クラレンスは少年のころかけっこをした、ほこりっぽい道を思いうかべることができました。かれは今、陸上のアメリカチームの一員としてデンマークに来ていて、明日行われる大切な試合で、有名なデンマークの選手と競走することになっていました。

車は小さな礼拝堂の前で止まりました。中ではもう教会の集会が始まっていました。

クラレンスは集会の後ろからそっと入ると、壇上にすわっていた宣教師の一人が、明日の競技についての新聞記事にのっていたクラレンスに気づきました。支部会長がクラレンスに、前に来て話してくれるようにたのみました。

クラレンスがデンマークを訪問している理由を話すと、一人の少年が立ち上がって手を挙げました。「デンマークのチャンピオンに勝てると思いますか」と聞きました。

クラレンスは何と言っているかわかりませんでした。今季、そのデンマークの選手は、1マイル走のタイムではクラレンスに勝っていました。

クラレンスが答える前に、宣教師の一人が「もちろん勝てますよ」と答えました。「知恵の言葉を守っていませんからね。」そう言うと、教義と聖約第89章を開きました。そして、知恵の言葉を守る人は「走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない」という約束を読みました(20節)。

クラレンスは何と言ったらよいのでしょうか。クラレンスは知恵の言葉は真実だと知っていました。子供のころから、いつもそれを守ると約束しました。でも、それだけで競走に勝てるわけではありません。勝つためには練習や技術も必要でした。クラレンスは集会から帰りながら、「どうせ教会の人はだれも競技には来ないだろうからかまわない」と思いました。



クラレンスの選^{えら}び

1948年、クラレンス・F・ロビソンは夏季オリンピックの競技に出場し、偉大な大学の陸上コーチになりました。おさな
いころ、いつも知恵の言葉を守ると約束
しました。知恵の言葉を守ったからと言
って、すべての競技に勝てるとは限らない
ことは承知していました。クラレンスは、
自分が清く、ふさわしくあって、しんこう
を持つときに、最善をつくせるように天の
お父様が助けてくださると知っていま
した。

つぎ ひ ゆうがた きょうぎ
次の日の夕方、クラレンスが競技
のためのウォーミングアップをしてい
るとき、みあげるとふたりせんきょうし
と見上げると二人の宣教師と
17人ほどの少年がいるのが見えました。
かれらは本当に来たのです。

かれらはこちらへやって来ると、せん
教師の一人がクラレンスにささやきま
した。「もし今まで人生で走ったこと
があるなら、今晩は本気で走らな
いと！」少年たちの多くはきょうかい
ではありませんでしたが、友達と一緒
に、本当に知恵の言葉が真実かどう
かをたしかめに来たのです。

クラレンスは心配になりました。この
競技では、ベストをつくしても、勝て
ないかもしれません。でも、クラレン
スはイエス・キリストの福音の原則を
かけて走ろうとしていたのです。勝つ

ひつよう
必要がありました。今まで、勝てる
ようにといたったことはありませんで
した。でも今回は、いのるためにだれ
もない部屋を見つけました。

そしていのりました。「天のお父
さま、わたしは知恵の言葉が真実だと
知っています。それをやぶったことは
一度もありません。この競技に勝て
るように祝福してください。」スタート
ラインに歩いて行くとき、天のお父様
は自分のいのりを聞いてくださったと
分かりました。天のお父様の御心を
信頼していました。

その晩は雨がふって、地面はぬか
るんでいました。クラレンスが走り始
めると、これまで走った1マイルレ
ースと同じに思えました。全体のペー
スは速く、デンマークのチャンピオン

はずっと前を走っていました。しか
し、クラレンスが3周目を終えたとき、
急につかれを感じなくなりました。
もっと速く走り始めましたが、き
つくありませんでした。もう少し速く
走っても、まだ大丈夫でした。デン
マークのチャンピオンを抜かしても、
まだスピードは増していました。

クラレンスがコーナーを回ったとき、
コーチがさげびました。「スピードを
落とせ！ ゴールまで持たないぞ！」で
も、クラレンスはまだ走り続けられる
と知っていました。ゴールしたとき、デ
ンマークのチャンピオンに46メートル
以上の差をつけていました。天のお
父様がいのりにこたえてくださり、知
恵の言葉が真実だからこそ勝ったこ
とを、クラレンスは知っていました。■

友達と しんこう

アメリカ合衆国ユタ州のメリッサ・ハート



こんにちは!
わたしは
イバナです。

わたしはコロンビアの
ボゴタに住んでいます。
そして、友達や家族と
福音を分かち合う
ことによって
しっかりと立っています。



わたしはカトリックの女子校に行っています。
わたしが信じていることはクラスメートや先生の
信じていることと違っていることもあります、
みんなわたしを尊敬してくれますし、
わたしもみんなを尊敬しています。
みんなわたしの宗教に興味を持ってくれているので、
分かち合う機会があります。
これはわたしと友達のルイサです。

先生から、わたしたちは
カトリック教徒のひと
と同じことを信じているのかと
聞かれたことがあります。
わたしたちは、イエス・キリストを
信じていますと伝えました。
また、モルモン書や聖書や
教義と聖約についても話しました。

わたしのお父さんは
教会員ではありませんが、
よく活動に来てくれます。
わたしはお父さんのことを
カトリック・モルモンだと言って
からかいます。



わたしたちは総大会のとき
ソルトレーク・シティーを訪問して、
モンソン大管長が話すのを聞きました。
大管長の言葉はとても美しく、
福音について教えてくれました。



わたしのバプテスマに
学校の友達をさそくと、
彼女は来てくれました。
バプテスマを彼女に見てもらえて
うれしいです。



しっかりと立つための イバナからのていあん

笑顔で、他の人と教会のお話や聖文を分かち合う
毎週日曜日に教会の集会に出席する

家庭の夕べをする

毎日聖文を読むようにする



コロンビア、ボゴタ神殿は
美しいです。
いつか神殿の中に入って、
福音についてもっと学べる
ようになりたいです。
友達のパラも
一緒に来てくれました。





十二使徒定員会
M・ラッセル・
バラード長老

宣教師は どのようにして召されますか

まず、ビショップとステーク会長が
あなたと面接をします。



次に、十二使徒が
あなたの写真と情報を
コンピューターの
画面で見ます。



かれらはみなさんの目の奥底を見通します。

その後、主の御霊の力によって、
教会の409の伝道部の一つにみなさんを召します。

M・ラッセル・バラード「ヤングアダルト——最も偉大な世代の人々」
『リアホナ』2015年5月号, 67-69



質問コーナー

お母さんとお父さんが
口げんかをするとき、
とても不安で悲しくなります。
わたしに何ができるでしょうか。



天のお父様にいのることができます。
ぼくは、いのるといつも良い気持ち
がします。
ヘイデン・H, 6才
(カナダ, アルバータ州)



お父さんとお母さんが問題を乗り
こえられるようにのったり、自分の
気持ちがよくなるように、教会の歌を
歌ったりできます。
アディソン・S, 10才
(アメリカ合衆国, ワシントン州)



わたしは両親が幸せな気持ちを感じ
られるように、おもしろいじょうだん
を言ったり、学校の様子について
話したりします。二人が笑い出すと、
聖霊があなたは正しいことをしたと
教えてくださるのを感じます。
エレナ・M, 12才
(アメリカ合衆国, カリフォルニア州)



ぼくたちきょうだいは、自分たちの
部屋に行ってタバナクル合唱団の歌
を聞きます。そうすると、平安を感じ
ます。
ベン・M, 11才
(オーストラリア, プリズベン)



両親が口げんかをするとき、ぼくは、
天のお父様にいのって、両親が御霊
を感じて問題を解決できるように
助けを求めます。
イーサン・M, 11才
(アメリカ合衆国, カリフォルニア州)



マックス——ぼくは二人をだきしめ
て、イエス様のことを思い出せる
ように、初等協会の歌を歌ってあげ
ます。



ゲーブ——天にいるあなたの家族の
絵をかいてあげて、両親が良い気持
ちになれるようにしてあげてくだ
さい。
マックスとゲーブ・C, 6才と10才
(インド, コチ)

次の質問

「自分が断食を始められる年齢になったことは、どのように分かりますか」

何かアドバイスがありますか。あなたの答えと写真を2016年7月31日までに
送ってください。liahona.lds.orgでオンラインで送るか、liahona@ldschurch.
orgに電子メールで送ってください。(件名に「質問コーナー」と書いてください。)
親のきょうか文も入れて送ってください。

勇敢な司令官モロナイ

司令官モロナイはニーファイ人の軍をみちびきました。天の御父にしたがうことを愛しました。ニーファイ人の兵士たちがレーマン人の攻撃から身を守るように助けました。また、兵士たちが天のお父様の祝福を思い起こせるように助けました。勇敢になれるように自由と家族について思い起こせるように助けました。



学校で、たくさんの人の悪い言葉を使っている、わたしはそれを聞くといやな気持ちになります。お母さんとわたしは、勇気が持てるように、どうすればよいか分かるようにいのりました。次の日、みんなが悪い言葉を使い始めたとき、わたしはいいに「そういう言葉を使うのはやめてもらえないかしら。それを聞くといやな気持ちになるの」と言えました。みんなは「分かった、ごめんよ」と言ってくれました。それを聞いて、わたしは心に喜びを感じました。そして、助けを求めるとき、天のお父様はわたしを助けてくださることが分かってうれしかったです。

ベラ・T, 10才 (アメリカ合衆国, バージニア州)



グラント・L, 10才 (アメリカ合衆国, フロリダ州)



切って、折って、このチャレンジカードを持ち歩きましょう。

わたしは、勇敢な人になれます。

- アルマ48：11 - 12 を暗記しましょう。17 節も読みましょう。
- 不安や恐れを感じている人が勇敢になれるように助けましょう。天のお父様についての証を分かち合ってください。
- www.lds.org/children/videos/scripture-stories?lang=jpn でモルモン書ものがたりのビデオの 31 - 33, 35 章を見ましょう。
- わたしの もくひょうは、 _____ です。

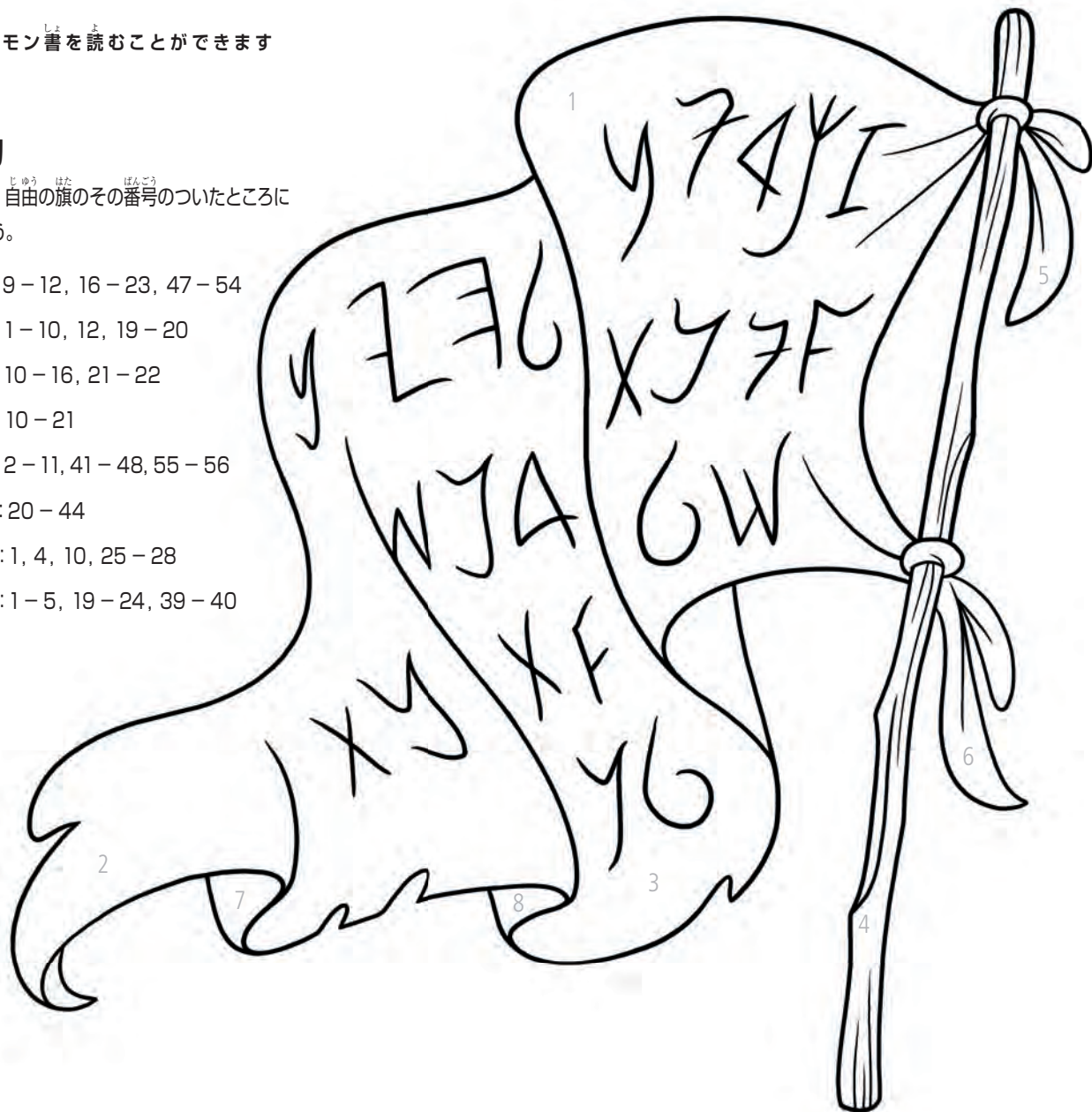
司令官モロナイ


わたしはモルモン書を読むことができます

こんげつ せい く
今月の聖句

せい く を さん たら、じゆう の ぼん の その ばんごう の ついた ところ に
 いろ を めり まし ょう。

- 1 アルマ 43:9-12, 16-23, 47-54
- 2 アルマ 44:1-10, 12, 19-20
- 3 アルマ 46:10-16, 21-22
- 4 アルマ 53:10-21
- 5 アルマ 56:2-11, 41-48, 55-56
- 6 ヒラマン 5:20-44
- 7 ヒラマン 8:1, 4, 10, 25-28
- 8 ヒラマン 9:1-5, 19-24, 39-40





じ ゆう は た
自由の旗

モロナイはレーマン人から家や家族を守るための戦いの中で、ニーファイ人をみちびきました。司令官モロナイは自分の衣で「自由の旗」を作りました。モロナイはニーファイ人に自分たちが何のために戦っているかを思い出させるために、特別なメッセージを書きました。「我々の神と宗教、自由、平和、妻子のために」(アルマ46:12)。76ページに自由の旗についてもっと書かれています。読んでみましょう。来月の読書チャレンジも楽しみにしてください。■

「自由の旗」は、モルモン書から引用されたものです。© 2016 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, Salt Lake City, Utah.

しれいちょうかん モロナイの はた

むかし わるい おう王さまが いまいま
した。王さまは、おうニューファイ人じんを
しはいしたいと おも思いました。



モロナイは、じんニューファイ人の ぐんぐんの
しれいちょうかんでした。モロナイは
つよ強くて、かみ神を あいあいする ひと人でした。



しれいちょうかん モロナイは、
 わるい ^{おう}王さまの ^{ぐん}ぐんから、
^{ひと}人人を ^{おも}まもりたいと 思いました。



モロナイは、^{ひと}人人のために はたを ^{つく}作ることにしました。



ひとびとは、しれいちょうかん モロナイのはたをみて、
かみ
神に したがいかぞくを まもらなければ ならないことを
おも
だ
思い出しました。そして、へいわを とりもどすことが できました。■

かいたくしゃ
開拓者のように

確信をもって ♩ = 120-126

詞・曲：ジャニス・カッパ・ペリー

C Dm7 C F G

1. かいたくしゃの ように ゆうきに あふれ
 2. かいたくしゃの ように ちからづよくあ

C F Dm C

て しゅ に ち か ら を も と め み
 り す べ て の い ま し め を ま

G D7 G C Dm7

こころおこな おう わたし も な り た
 も るでしとな ろう ま わ り の ひ と の

C F E7 Am

い な め よ げ ん しゃ に し た が い しゅ
 た め よ い も は ん し め し しゅ

F C Dm7 G7 C

が の ぞ ま れ る こ と お こ な え る よ う に
 が し ん ら い で き る ひ と に な り 一 た い



十二使徒定員会会長
ボイド・K・
パッカー会長
(1924 - 2015年)

霊のワニ

わたしは言いました。「そんなばかな。ワニなんかいないじゃないですか。」

わたしはいつも、アフリカに行つて動物を見たいと思っていました。そしてついにその機会が訪れました。……

わたしたちは水たまりの所で止まって、動物たちが水を飲みに来るのをじっと見ていました。その季節は非常に乾燥していたために水はあまりなく、ぬかるみがあるだけでした。しかしゾウがその柔らかい泥の中に足を入れると、足跡のくぼんだ所に水がしみ出し、そこにたまった水を動物たちが飲むのです。

動物の中でも、アンテロープはとても臆病でした。泥の穴に近づいては来ますが、怖がって向きを変え逃げ出すのです。辺りには1頭のライオンも見えなかったため、なぜアンテロープが飲まないのかとガイドに尋ねました。彼は、そしてこれが肝心なところなのですが、「ワニさ」と答えました。

わたしは、彼が冗談を言っているのだと思い、今度は真剣に尋ねました。「何が問題なんですか。」答えはまた同じでした。「ワニさ。」

わたしは言いました。「そんなばかな。ワニなんかいないじゃないですか。」……

わたしが彼の答えを信じていないことが分かったと、ガイドは、「よし、教えてやろう」と思ったようでした。わた



したちは車で別の場所へ移動し、他の泥の穴を見下ろせる堤防の上に行きました。「ほら」と彼は言いました。「自分で見るといい。」

泥と少量の水と、遠くにいるおどおどした動物以外は何も見えませんでした。しかし突然見えたのです！1頭の巨大なワニです。泥の中にじっと潜み、喉の渴いた動物が何も疑わずに水を飲みに来てを待っていたのです。……

失礼なわたしに対してガイドはとても親切でした。「ワニさ」という彼の最初の答えに、知ったかぶりで反論したわたしに、彼は、「じゃあ、そこに行つて、自分で見てみるといい」と言えば言えたのです。

わたしには1頭のワニも見えませんでした。自信があったので、そこに何がいるのか見に、そこまで歩いて行っていたかもしれせん。そうした思上がった態度が、命取りになるところでした。しかしガイドは忍耐強くわた

しに教えてくれました。

若い友人の皆さん、皆さんがガイドと話すときは、あのときのわたしより、もっと賢くあってください。自分は何でも知っているんだという生意気な考えは、わたしにとって褒められたことではありませんでした。皆さんにとっても褒められることではありません。あまり自慢できるのではなく、このことをお話しするのは恥ずかしいのですが、ただ、話すことで皆さんの役に立つのではと思ったのです。

皆さんの人生の先輩たちは、水たまりについて少し詳しく調べ、ワニがいると警告の声を上げています。ワニとは言っても、人をかみちぎる、巨大な灰色のトカゲではありません。うまく周囲に溶け込んで発見されないようにすることが上手なアフリカの爬虫類はちゅうりゆうよりも無限に危険で、だますのがうまく、しかもずっと見えにくい霊のワニのことを言っているのです。

この霊のワニは、皆さんの精神にひどい苦痛を与えたり、壊したりできます。皆さんの、そして皆さんを愛してくれる人々の心の平安を壊すこともできます。人々が警告するのはこういうワニに対してであり、この世の中には、こういうワニに荒らされていない水飲み場はほとんどありません。……

幸いなことに人生には大勢のガイドがいます。わたしたちが折にふれて彼らの勧告を積極的に聞き入れるなら、そうしたことが起きるのを防ぐことができます。■

『霊の『ワニ』』『聖徒の道』1976年8月号、339 - 341 参照

洞 察



どうすればわたしたちは厳しい世の中で成長できるのでしょうか。

「文字どおり混乱した厳しい世の中で生活しているキリストの弟子として、わたしたちは、救い主の愛に根ざし、謙遜に救い主の教えに従うならば、成長して花を咲かせることができます。」

今月号のその他の記事

ヤングアダルト



44
ページ

早期の帰還に 向き合う

伝道から予定より早く帰還することは非常に辛い経験でした。しかしその経験を、これら6つのことに焦点を当てることで、一歩前へ進む経験にすることができます。

青少年

救い主を 覚える

毎週わたしたちはイエス・キリストを常に覚えることを約束し、その約束を守ることによって毎日祝福を受けることができます。



60
ページ

子ども



76
ページ

しれいちょうかん モロナイのはた

しれいちょうかん モロナイは、人人が、いちばん 大切な こと
——かそくや かみさまを おぼえることが できるように、
はたを 作りました。みなさんは、いちばん 大切なことを
どのようにして おぼえますか。

『リアホナ』についてのご意見を liahona@ldschurch.org まで電子メールでお送りください。



末日聖徒
イエス・キリスト
教会